

## 第3回 上越市総合計画審議会 次第

日 時 令和4年6月28日(火)

午後1時30分から

会 場 上越市役所第一庁舎 401 会議室

### 1 開会

### 2 報告

- (1) 総合計画審議会及び総務常任委員会所管事務調査  
における意見等の対応について

資料No.1

### 3 議事

- (1) 第7次総合計画の全体構成について

資料No.2

- (2) まちづくりに込める想い(基本理念)、将来都市像  
の補足説明について

資料No.3

- (3) まちづくりの目標(政策)について

資料No.4

### 4 その他

### 5 閉会

## 総合計画審議会及び総務常任委員会所管事務調査における意見等の対応

令和4年6月28日
第3回総合計画審議会
資料 No. 1

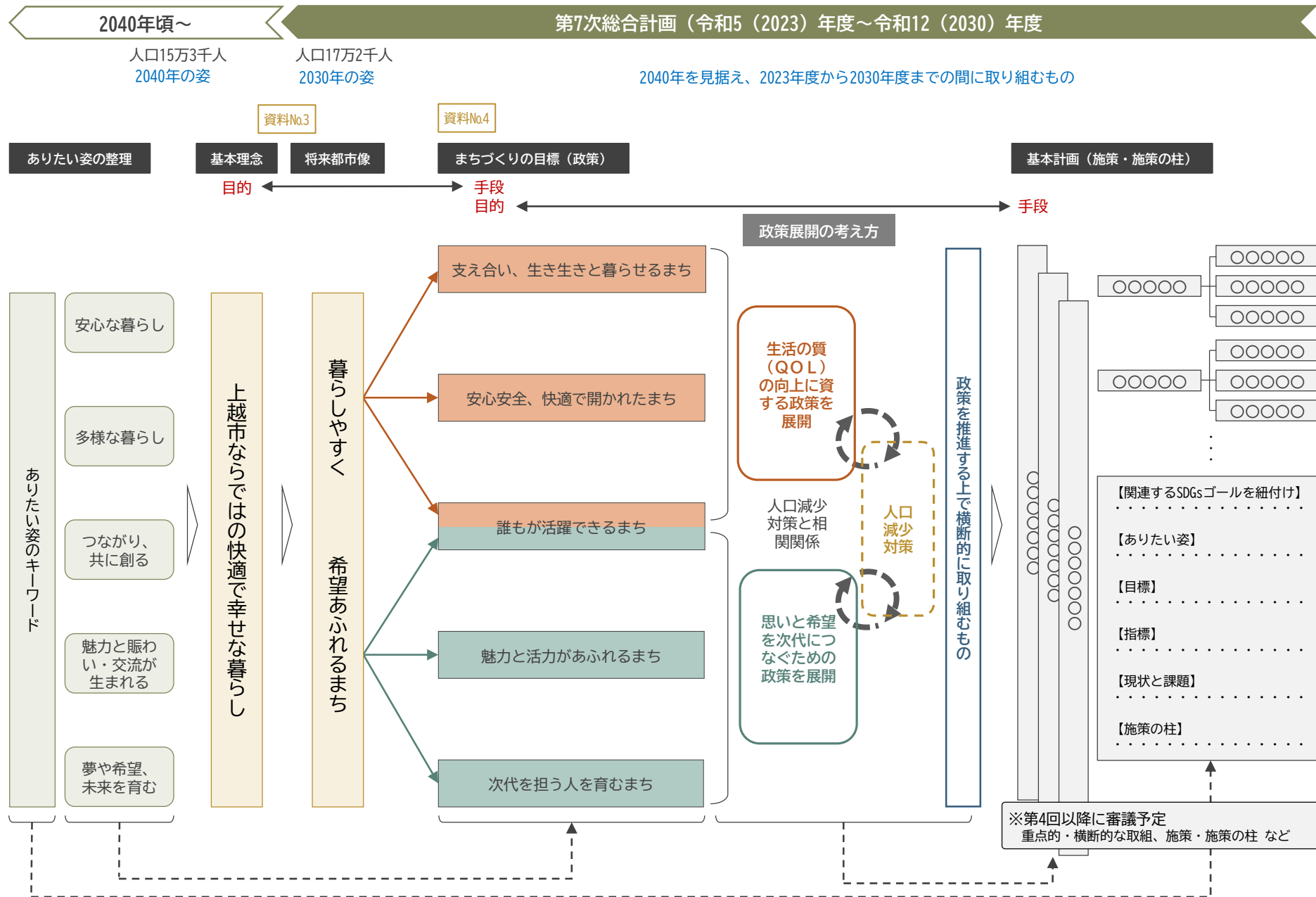
■ 5月31日開催の第2回上越市総合計画審議会及び会議後に聴取した委員の意見等とあわせ、6月13日開催の市議会総務常任委員会の所管事務調査における議員の意見等について、以下のとおり今後の対応や検討の方向性等を整理した。

No.	項目 【第2回資料No.】	出所	意見等の内容	今後の対応、検討の方向性等
1	まちづくりに込める想い（基本理念） 【資料No.3】	第2回審議会会議後の意見	・「上越らしさ」という部分、特に「雪」に関する内容が薄いように感じられる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「上越らしさ」は、市民意見交換会やグループインタビュー等を通じて、市民から聴取した意見を踏まえ、世代を超えて受け継ぎ、今後も大切にしていきたいまちの価値として3つにまとめたものである。</li> <li>・「雪」に関する様々な思いについても、市民からいただいております、それを踏まえ、「上越らしさ」中の「自然との共生」において雪国や自然の畏怖や恵みをもたらすものとして、また「共助の精神」において雁木に象徴される雪国の暮らしについて、それぞれ記載している。</li> <li>・今後、計画の本冊子において「上越らしさ」を記載する際には、説明を充実させることを検討する。</li> </ul>
2			・「上越市ならではの」ではなく、「上越市らしい」の方が自然環境や人々とのつながりを感じさせる表現ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「上越らしさ」を受け継ぐ中で、市民が安心感や幸福感、満足感を得られている状態が創られ、次代に引き継がれていく、そのような理想的な暮らしの状態を「上越市ならではの」と表現しており、原案のままとする。</li> <li>※詳細は、第3回資料No.3のとおり</li> </ul>
3		議会所管事務調査	・「上越市ならではの」を「唯一、無二」という意味で使用しているのか。	
4	バックキャストिंगの考え方	第2回審議会における意見	2040年のありたい姿の実現に向け、2030年までにどこまでまちを充実させるのかという方向性が見えないと市民にとって分かりづらいのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2040年のありたい姿の実現に向け、まずは2030年までに、生活の質を着実に高めていくとともに、若者が希望をもって暮らしていけるためのまちづくりに取り組むこととしている。そのことを今後の政策・施策の取組において明記していく。</li> <li>※詳細は、第3回資料No.4のとおり</li> </ul>
5		第2回審議会会議後の意見	・2040年からのバックキャストिंगについて、2040年という設定の理由について分かりやすい説明が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、人口減少の更なる進行や、社会全体のデジタル化や脱炭素の取組の加速など、社会経済環境の変化が急速に進むことが想定される。</li> <li>・特に、「2040年問題」として、団塊ジュニア世代が2040年頃に65歳以上を迎え、全国的に高齢者人口が最大となり、当市においても、高齢者数が減少に転じる中で、高齢化率が約4割まで高まるなど、人口構造が大きく変化していく。</li> <li>・さらに、2040年頃には、老朽化したインフラや公共施設の大幅な増加、中山間地域の人口の低密度化や集落機能の低下、さらには現役世代（20～65才）の急減に伴う産業全体の労働力不足など、各分野の課題が一層深刻化することが懸念される。</li> <li>・こうした中、持続可能なまちを目指す上で、未来を見据え、長期的かつ確かな展望をもってまちづくりを進めていくことが必要と考え、2040年の理想の姿を描くこととしたものである。</li> </ul>
6		議会所管事務調査	・計画策定にあたり、バックキャストिंगの手法を採用した経緯は。 ・2040年のありたい姿とSDGsの関連性はあるか。総計にSDGsの目標を反映してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・No.5に記載のとおり、持続可能なまちを目指す上で、長期的かつ確かな展望をもったまちづくりを進めていくことが必要と考え、バックキャストिंगの考えを採用したもの。</li> <li>・SDGsの目標年限が総合計画の計画期間となる2030年と重なるため、今後、具体的な政策・施策を検討する中でSDGsの関連性を示していく。</li> </ul>
7			・2040年のありたい姿を具体的にイメージすることは困難であるが、どんな事態にも適応できる対応力を備える必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当市の豊かさを守り、発展させていくという考えの下、将来都市像は、暮らしやすさを「守る」こと、チャレンジ・活躍できる環境をつくり、希望あふれるまちにするといった「攻め」の姿勢を表現したところ。</li> </ul>

No.	項目 【第2回資料No.】	出所	意見等の内容	今後の対応、検討の方向性等	
8	将来都市像 【資料No.4】	第2回審議会における意見	・将来都市像の内容が漠然としており、市民に対するメッセージ性が乏しく感じる。危機感を伝え、必死で取り組んでいくという姿勢がわかるようなメッセージを明確に出してほしい。	<p>・将来都市像は、施策推進のためのスローガンではなく、市民のまちづくりに込める想いとして、2040年のありたい姿のキーワードをまとめた「上越市ならではの快適で幸せな暮らし」の実現に向けた、2030年時点の目標とする姿として設定したものである。</p> <p>・多くの市民の想いを包含し、また、市の政策全般の取組の方向性を網羅するものを検討した結果、今回は普遍的な姿として表現することが適当と考えたところ。</p> <p>・これまでの累次の総合計画においても、時代の潮流を捉える中で、同様の考え方で設定している。</p> <p>【過去の計画の将来都市像】 ※平成以降  第4次総合計画： みどりの生活快適都市・上越  第5次総合計画： みんなで創る元気都市・上越  〃（改訂版）： 海に山に大地に 学びと出会いが織りなす共生・創造都市 上越  第6次総合計画： すこやかなまち 人と地域が輝く上越</p> <p>・今後、政策・施策ごとに「ありたい姿」又は目指す方向性を具体化し、計画に明記するものとする。</p> <p>・また、「暮らしやすく」と「希望あふれる」がどのように政策・施策の展開につながり、重要課題である人口減少対策に寄与していくか、考え方や取組方向を示していく。</p> <p>・なお、将来都市像にも、副題を入れることを検討し、共感やイメージを持ちやすいものとなるよう工夫する。</p> <p>※第3回資料No.3、4のとおり</p>	
9			・子育て世代に特化した街づくりで、移住者を増やす。企業と連携をして、女性が働きやすい職場づくりに力を入れるなど、何かに特化したまちづくりをすべき。		
10		第2回審議会会議後の意見	・将来都市像は、抽象的すぎる印象である。例えば「日本一住みたいまち」とすれば、この後に続くアクションが浮かび易く、「らしさ」の解釈が人によって差が生じることを避けるためにも具体性を持った表現を取り入れるべき。		
11			・全体的に漠然としていて内容が掴めない。現段階ではどういうまちにしていくという目標があまり掴めない。		
12			・基本理念、将来都市像は抽象的であるため、「〇〇するなら上越市」のようなアピールポイントを考えていく必要がある。		
13			・総合計画の役割からは、厳しい切り口や予測はそぐわないと考える。しかしながら、現実的な人口減少などの課題を捉え、そのうえで、上越市が快適で幸せな暮らしを目指すこと、暮らしやすく希望あふれるまちを実現していくことが市民に分かりやすく語られることが望ましいと考える。		
14			・「地球を終わらせない」といった、分かりやすいキャッチフレーズが求められているのではないか。		
15			・将来都市像（案）について、市民の皆さんに分かりやすく、誰でも理解出来るようにイラストなどでしてはどうか。		
16		第2回審議会における意見	・「希望あふれる上越市」とはなぜ必要で、どのようなものなのかなど、もっとわかりやすく論述するとよい。		<p>・急速に進む少子高齢化や人口減少、自然災害の頻発化・激甚化など、前例や経験則が通用しない局面を迎え、変えてはいけないものは守り維持しつつ、柔軟な発想と勇気をもって前に進み続けることが必要である。</p> <p>・こうした認識の下、「暮らしやすく」に込めた意味は、市民がつながり、支え合うことを通じて、心身や経済的な安定を満たされ、生活の質が向上している状態を表すものであり、一方、「希望あふれる」は、地域を支える人づくりが進み、地域の魅力の最大化や、将来を担う若者の希望がかなう環境づくりが図られている状態を目指すものである。</p>
17		第2回審議会会議後の意見	・第6次総合計画と類似しているとの考えもあるが、上越市の進む方向は大きく変わるわけでもなく、ほとんど同じ方向と思われる。その時の重点項目の表現が違うだけだと思う。「希望あふれるまち」の表現は賛成。		<p>・第6次総合計画と第7次総合計画の「将来都市像」は、いずれも市民をまちづくりの中心に据え、人と地域のつながりを重視するとともに、普遍的な安心感、幸福感、満足感を高めていくという点では共通している。</p> <p>・第7次総合計画では、これらに加え、全ての人々が活躍・挑戦できる環境を整え、地域の魅力の最大化を通じて、若者が帰ってきたいくなるような地域にしたいという想いを「希望あふれる」という言葉で表現したものの。</p>

No.	項目 【第2回資料No.】	出所	意見等の内容	今後の対応、検討の方向性等
18	策定の進め方 (市民意見の反映)	第2回審議会会議後の意見	・若者や女性の意見を計画に取り入れるべき。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに実施した、グループインタビューやまちづくり市民意見交換会において、若者や女性からも参加いただき、意見聴取を行った。</li> <li>・また、ウェブを介して市民意見を聴取しているほか、別途、若者や子育て世代、移住団体等と意見交換する場を設けるなど、今後も丁寧に意見を聴取していく。</li> </ul>
19			・若者の意見を反映してもらいたい。	
20		議会所管事務調査	・意見交換会等では得られない、「声にならない声」も取り入れてもらいたい。	
21			・市外に転出した人や市内に移住を考えている人から意見を聞く考えはあるか。	
22			・若い世代は、未来をあきらめておらず、社会の課題解決に前向きである。高校生・大学生ワークショップは、意見を聞いて終わりにせず、事業に反映してもらいたい。	
23	今後の具体的な取組	第2回審議会における意見	・市内の地区別の人口の推移を予測した上でこれからの上越市がどのような行政サービスができるかということ具体的に盛り込んでいく必要があるのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の審議事項となる基本計画において、具体的な対応等を検討する。</li> <li>※市内の地区別人口の推移の詳細は、参考資料No.1のとおり</li> </ul>
24			・中山間地の課題は農林水産分野だけのものでない。ありがたい姿である地域の暮らしと文化を継承する具体策（めざす計画）が今後の議論で必要となる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の審議事項となる基本計画において、具体的な対応等を検討する。</li> </ul>
25			・魅力のPRなど、情報発信を強化すべき。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画審議会のほか、まちづくり市民意見交換会やグループインタビューにおいても、地域の魅力の創造や発掘とともに、情報発信の強化が必要との意見をいただいております。今後の審議事項となる基本計画において、具体的な対応等を検討する。</li> </ul>
26		第2回審議会会議後の意見	・専門性を持った大学ではなく、普通レベルの大学が必要。大学と企業の誘致が必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の審議事項となる基本計画において、具体的な対応等を検討する。</li> </ul>
27			・今後の経済・社会保障を支える若い世代の働きやすい環境を整えることが急務であると感じた。	
28	・短期的には人口移動の移住先競争に勝つか方法はなく、それよりも外国人の受け入れ先として確実に準備していくことが地域発展には大切。			
29	・新幹線駅を持つまちの特性を活かした「上越妙高駅に降りてみたい」と思わせる駅周辺環境の整備が大切。			
30	議会所管事務調査	・今ある課題の解決方法についての記載が乏しい。		
31		<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災分野のありがたい姿について、最悪を想定したありがたい姿を検討してほしい。</li> <li>・農林水産分野は、国政の展開との関係性を意識して評価・検証を振り返ってほしい。</li> </ul>		
32		・デジタル関係の専門家の意見をより積極的に取り入れて欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Society5.0、グリーン社会の実現など社会の潮流を捉え、専門的な知見が必要な重要な課題について、具体的な取組を検討する際には、必要に応じて、大学教授や民間シンクタンク等の専門家にヒアリングを行うことを想定している。</li> </ul>	

第7次総合計画の全体構成



## まちづくりに込める想い（基本理念）、将来都市像の補足説明

### まちづくりに込める想い（基本理念）

2040年のありたい姿を展望し、まちづくりを進める中で、追求する普遍的な想いを設定

## 上越市ならではの快適で幸せな暮らし

### ①大切な価値を継承し、さらに高める

#### 『上越市らしさ』

- ・四季折々の自然の美しさ、奥深い歴史・文化、その精神性、思いやりや支え合いの精神など、私たちのあたりまえの中にある、この地で受け継がれてきた有形無形の多彩でかけがえのない財産を磨き、より高めていく



### ②普遍的な安心感、幸福感、満足感（Well-being）の実現

#### 『快適な暮らし』

- ・強靱で安心・安全が保たれ、地域資源の循環を通じて地域間の連携・共生が進み、新たな価値が絶えず創出される、多様性に満ちた心地の良いまち

#### 『幸せな暮らし』

- ・生活の質が高まるとともに、個人と社会とのつながりが深化する中で、自分らしい生き方や将来への希望が実現し、誰もが生きがいをもって暮らせるまち



### ③この地で暮らす価値を高め、次代につなぐ

#### 『上越市ならではの』

- ・「上越市らしさ」があふれる中で、普遍的な安心感、幸福感、満足感（Well-being）が実感できる、他では感じられない「上越市ならではの」暮らしの価値を確かなものとし、次代に引き継いでいく

### まちづくりに込める想いと将来都市像の関係性

2040年

- ・2040年問題
- ・公共施設やインフラ老朽化
- ・担い手や労働力の大幅な不足
- ・人口15万3千人

2030年

- ・SDGs達成年限
- ・人口17万2千人

2040年頃、どうなっていたいか

※持続可能なまちづくりに向け  
長期的な目線で検討

2022年

【まちづくりに込める想い】

上越市ならではの快適で幸せな暮らし

- ・人口減少等の変化が進む成熟社会の中で、「上越市ならではの快適で幸せな暮らし」を実現していくためには、市民の暮らしとまちの成長を支える確かな基盤を確立していくことが必要。

【2030年の将来都市像】

暮らしやすく 希望あふれるまち

- ・各種インフラ、産業、教育、医療、福祉、環境、文化の全てにおいて、社会環境の変化に、柔軟かつしなやかに対応し、誰一人取り残されることなく、自分らしい暮らしができるよう、生活の質の向上を図り、安心感や満足度が高まっている。
- ・地域の魅力や資源、産業や人材などまちの力を市民や地域が一丸となって高め、いかしていく中で、地域に対する愛着や誇りが育まれ、市民一人一人が夢や希望を持って、暮らし、そして、次代を担う子どもや若者が帰ってきたくるようなまちになっている。

政策・施策として展開

現在

まちづくりの目標（政策）

まちづくりの目標（政策）

暮らしやすいまち

各種インフラ、産業、教育、医療、福祉、環境、文化の全てにおいて、社会環境の変化に、柔軟かつしなやかに対応し、誰一人取り残されることなく、自分らしい暮らしができるよう、生活の質の向上を図り、安心感や満足度をより高めていきます。

支え合い、生き生きと暮らせるまち

地域社会での支え合いや助け合いによって、暮らしの安心感を高めるとともに、年齢や障害等の有無に関わらず、誰一人社会から孤立することなく、心身ともに健康で、住み慣れた地域で自分らしく生きがいを持って暮らすことができるまちづくりを目指します。

安心安全、快適で開かれたまち

市民の暮らしを支える都市基盤や良好な生活環境の持続性を高め、災害に強く対応力のある安心安全で強靱なまちづくりに取り組むほか、地域の豊かな都市空間や自然環境を守り、高めるとともに、全国へと開かれた交通ネットワークをいかし、誰もが快適に暮らし続けられるまちづくりを目指します。

誰もが活躍できるまち

お互いの価値観や考えの違いを認め合い、一人一人が持つ力が発揮される環境をつくるとともに、地域コミュニティの充実や、様々な主体による協働・共創の取組を推進し、人々の関係性やつながりが育まれるなかで、誰もが活躍できるまちづくりを目指します。

魅力と活力があふれるまち

地域に根付き、新たな価値を作り出す産業の活力を高めるとともに、誰もがやりがいを持って働くことができる環境を整えるほか、「上越らしさ」を磨き上げ、その魅力を広く内外に伝えるなかで新たな交流が生まれていく、活力と魅力があふれるまちづくりを目指します。

次代を担う人を育むまち

安心して子どもを産み育て、次代を担う子どもたちが健康やかに育つ教育・社会の環境の整備や充実に取り組むほか、全ての世代が学び、活躍し、輝くことができるまちづくりを目指します。

希望あふれるまち

地域の魅力や資源、産業や人材などまちの力を市民や地域が一丸となって高め、いかしていく中で、地域に対する愛着や誇りが生まれ、市民一人一人が夢や希望を持って、暮らし、そして、次代を担う子どもや若者が帰ってきたくなるようなまちを目指します。

政策展開の考え方

生活の質(QOL)の向上に資する政策を展開

人口減少対策  
 ・持続可能なまちの形成  
 ・人口減少の緩和

思いと希望を次代につなぐための政策を展開

政策を推進する上で横断的に取り組むもの

1. SDGsの推進

- ・持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現をあらゆる主体とともに目指すという、SDGsの理念に沿った取組を推進することにより、地域課題の解決や環境・経済・社会の3つの側面のバランスの取れた効果の創出につなげていきます。
- ・本計画が目指す方向性と目標年度が重なることから、SDGsの理念や視点を積極的に取り入れ、目指す都市像と17の目標の達成に向け、取り組んでいきます。

2. デジタル技術の活用促進

- ・距離や時間を超越するデジタル技術の力は、新しいサービスやビジネスの創出機会につながるほか、市民生活における利便性や満足度を高めるなど、まちの活性化に大きく寄与するものと考えられます。
- ・デジタル格差に配慮しつつ、人口減少・少子高齢化を背景とする様々な社会課題の解決に向け、あらゆる分野でデジタル技術の活用を加速させていきます。

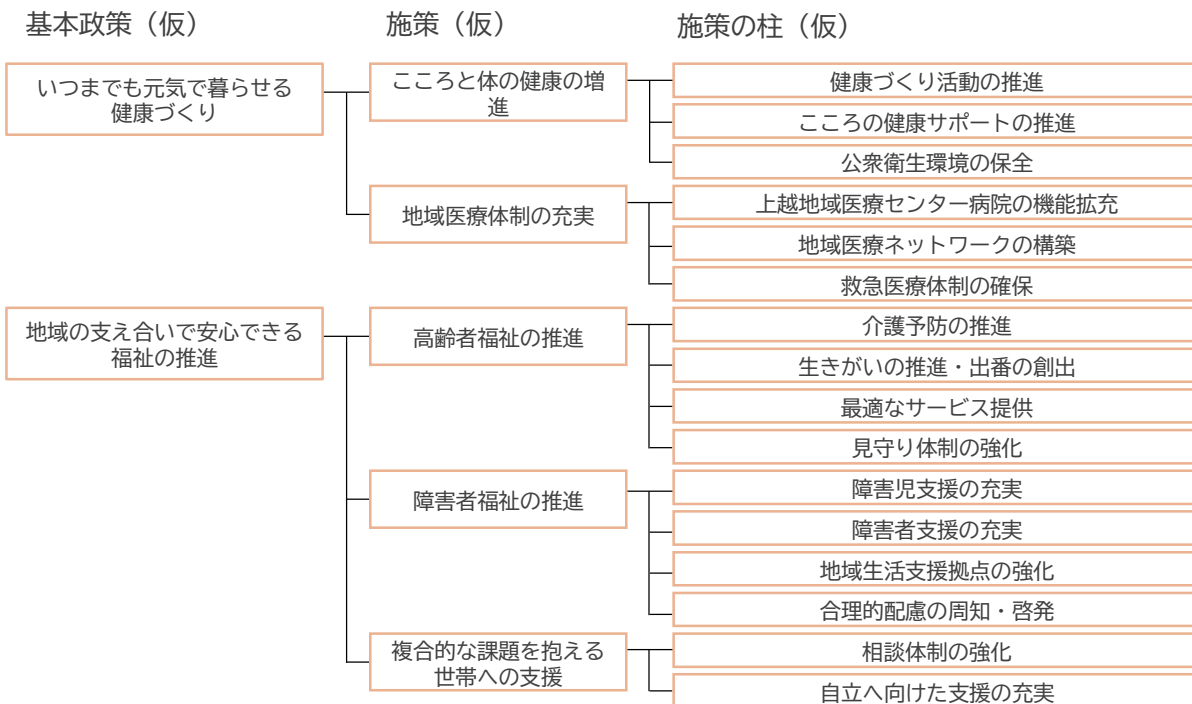
3. 持続可能な行財政基盤の構築

- ・市民一人一人の満足度の向上に向けて、行政サービスの質を高めるため、その立案・運用を担う職員を育成する人づくりや効率的に業務を執行する組織づくりに取り組みます。
- ・民間が持つノウハウやアイデアを活用するなど官民連携に取り組むとともに、人口減少、少子高齢化を踏まえ、歳入の確保や歳出の適正化に取り組み、将来に渡り持続可能な行財政基盤を構築していきます。

支え合い、生き生きと暮らせるまち

【説明】

地域社会での支え合いや助け合いによって、暮らしの安心感を高めるとともに、年齢や障害等の有無に関わらず、誰一人社会から孤立することなく、心身ともに健康で、住み慣れた地域で自分らしく生きがいを持って暮らすことができるまちづくりを目指します。

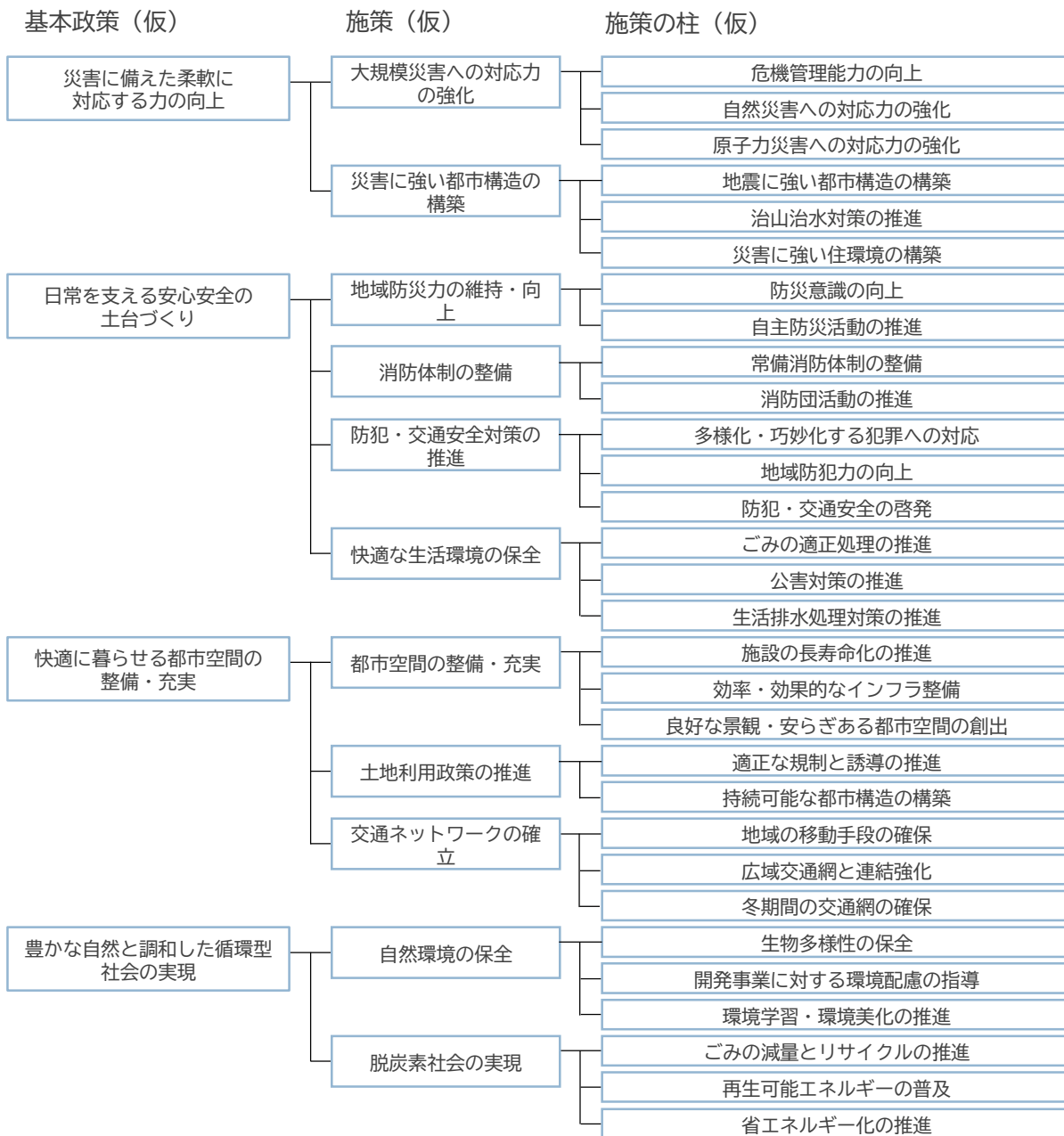




安心安全、快適で開かれたまち

【説明】

市民の暮らしを支える都市基盤や良好な生活環境の持続性を高め、災害に強く対応力のある安心安全で強靱なまちづくりに取り組むほか、地域の豊かな都市空間や自然環境を守り、高めるとともに、全国へと開かれた交通ネットワークをいかし、誰もが快適に暮らし続けられるまちづくりを目指します。



誰もが活躍できるまち

【説明】

お互いの価値観や考えの違いを認め合い、一人一人が持つ力が発揮される環境をつくるとともに、地域コミュニティの充実や、様々な主体による協働・共創の取組を推進し、人々の関係性やつながりが育まれるなかで、誰もが活躍できるまちづくりを目指します。

基本政策（仮）

施策（仮）

施策の柱（仮）

一人一人の個性が活かされ活躍できる環境づくり

人権尊重・多文化共生の推進

- 人権・非核平和の推進
- 多文化共生の推進
- ユニバーサルデザインの推進

男女共同参画・ジェンダーレス社会の実現

- 男女共同参画
- 女性活躍の促進
- 相談体制の充実

若者の活躍・希望の実現

- 生活支援の充実
- 交流の場の創出

多様な人とつながる社会関係資本（ソーシャルキャピタル）の確立

地域コミュニティの充実

- 地域を担う人材育成
- 地域自治区制度の推進
- 地域コミュニティ活動の促進

協働・共創のまちづくりの推進

- 小さな拠点づくりの推進
- 多様な市民活動への支援
- 市民参画と協働の推進

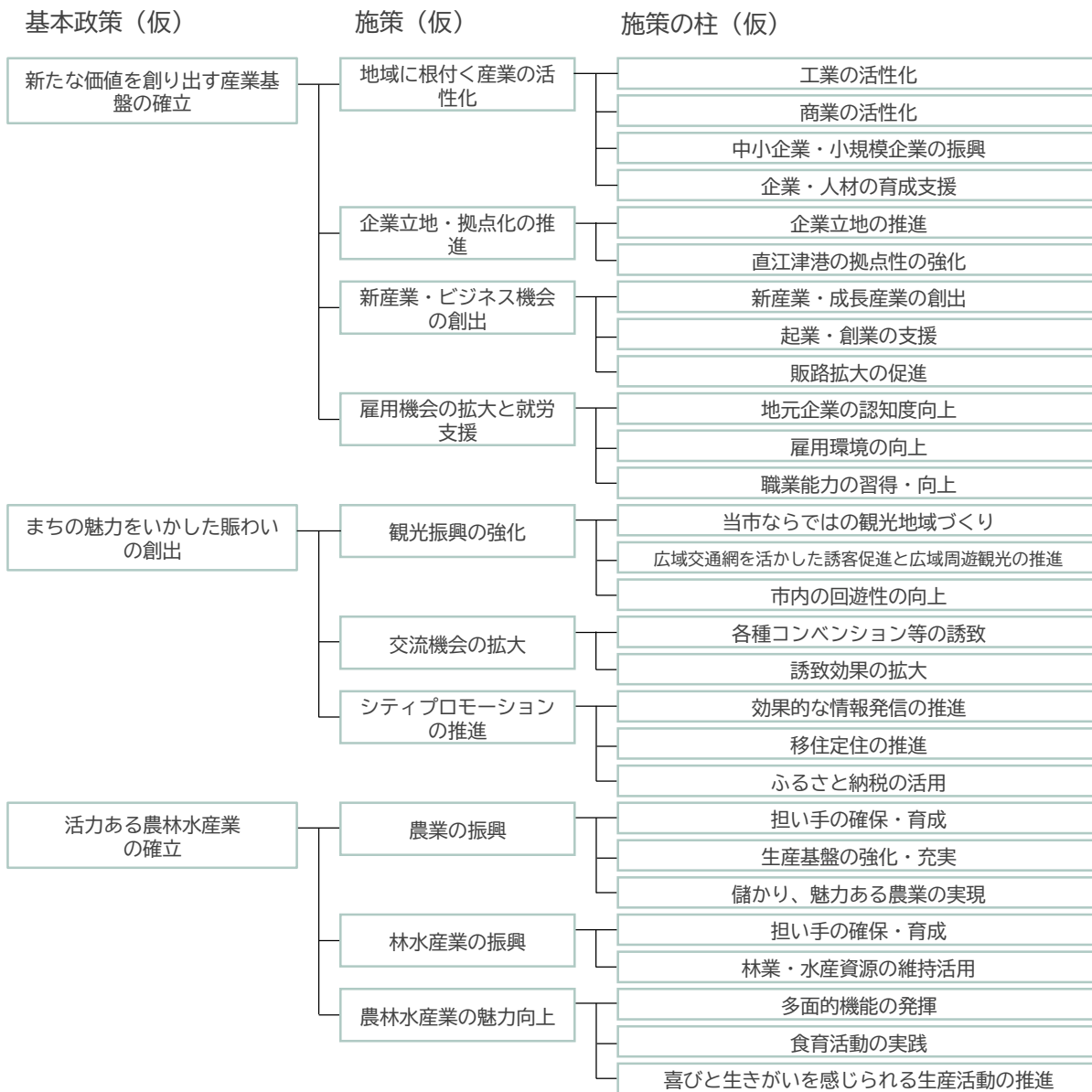
関係人口の創出・拡大

- 支え合い体制の構築
- ソーシャルビジネスの推進
- 官民連携による支え合い

活力と魅力があふれるまち

【説明】

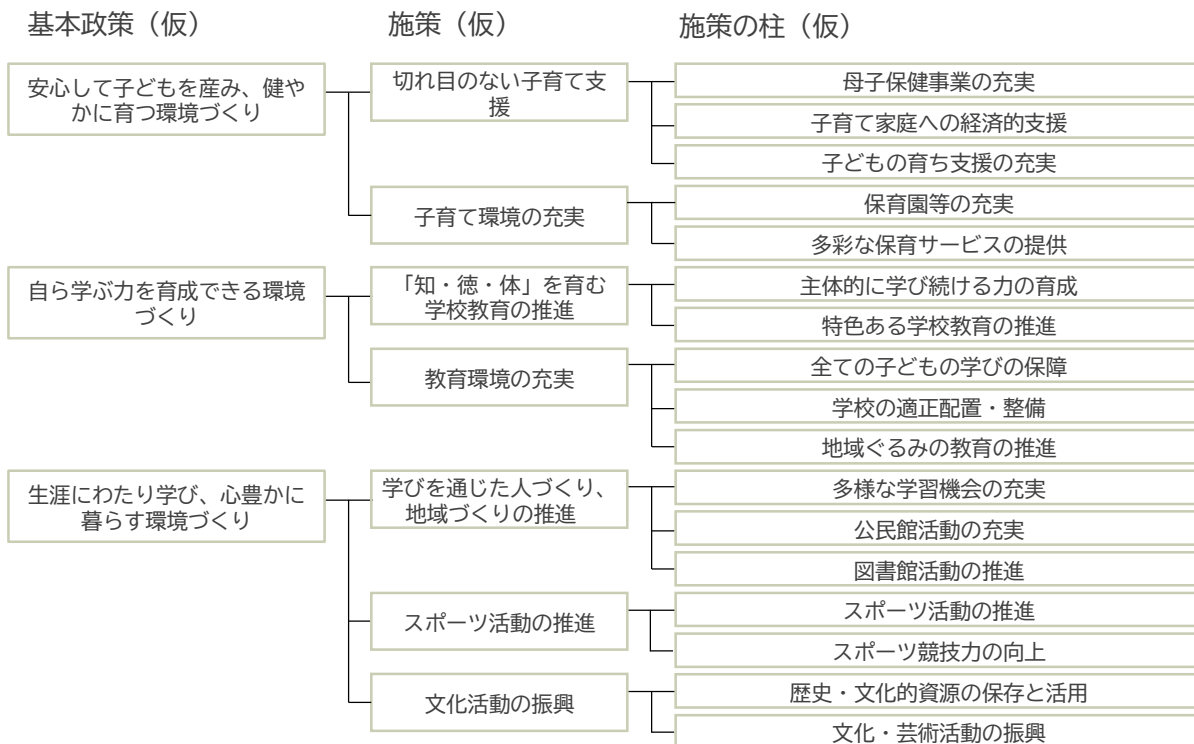
地域に根付き、新たな価値を作り出す産業の活力を高めるとともに、誰もがやりがいを持って働くことができる環境を整えるほか、「上越らしさ」を磨き上げ、その魅力を広く内外に伝えるなかで新たな交流が生まれていく、活力と魅力があふれるまちづくりを目指します。



次代を担う人を育むまち

【説明】

安心して子どもを産み育て、次代を担う子どもたちが健やかに育つ教育・社会の環境の整備や充実に取り組むほか、全ての世代が学び、活躍し、輝くことができるまちづくりを目指します。



# 上越市の将来推計人口 (地域自治区別)

上越市創造行政研究所

上越市企画政策課

## 目 次

はじめに	・・・	1
高田区、新道区	・・・	2
金谷区、諏訪区	・・・	3
和田区、津有区	・・・	4
春日区、三郷区	・・・	5
高土区、直江津区	・・・	6
有田区、八千浦区	・・・	7
保倉区、北諏訪区	・・・	8
谷浜・桑取区、安塚区	・・・	9
浦川原区、大島区	・・・	10
牧区、柿崎区	・・・	11
大湊区、頸城区	・・・	12
吉川区、中郷区	・・・	13
板倉区、清里区	・・・	14
三和区、名立区	・・・	15
【参考】転入者数が増加した場合の 将来推計人口の例（安塚区）	・・・	16

## ■ はじめに

この資料は、地域自治区別の人口の将来推計をご紹介します。データの詳細な分析や二次利用などされる場合は、下記に示したデータの定義や出所等にご留意ください。

### ○ 本データは、上越市創造行政研究所において独自集計したものです。

この資料に記載した内容を引用する場合は、上越市創造行政研究所の作成である旨を明記してください。なお、記載されている内容を加工・編集して二次利用することは避けてください。

### ○ お示した将来推計人口は、現在の傾向が続くことを仮定したものです。

将来推計人口の算出にあたっては、コーホート変化率法と呼ばれる手法を用いています。これは、年齢ごとの過去の移動率を基に、それが今後も継続すると仮定して将来の人口を算出する方法です。市としても、ここで示した通りに人口が推移することを享受するものではありません。

なお、今回の推計においては、2010（H22）年から2015（H27）年までと2015（H27）年から2020（R2）年までの移動率の平均値から将来推計人口を算出しています。

### ○ 将来推計にあたっては、国勢調査のデータを用いています。

国勢調査は5年ごとの調査ではありますが、実際に市内に住んでいる人の数がわかり、実態を正確に把握できるほか、その内訳の把握や全国との比較も可能です。なお、国勢調査の最新値は2020（R2）年です。

住民基本台帳における人口とは定義が異なることから、値が一部異なります。

### ○ 地域自治区別の集計は、町丁字（住所）単位のデータを合計しています。

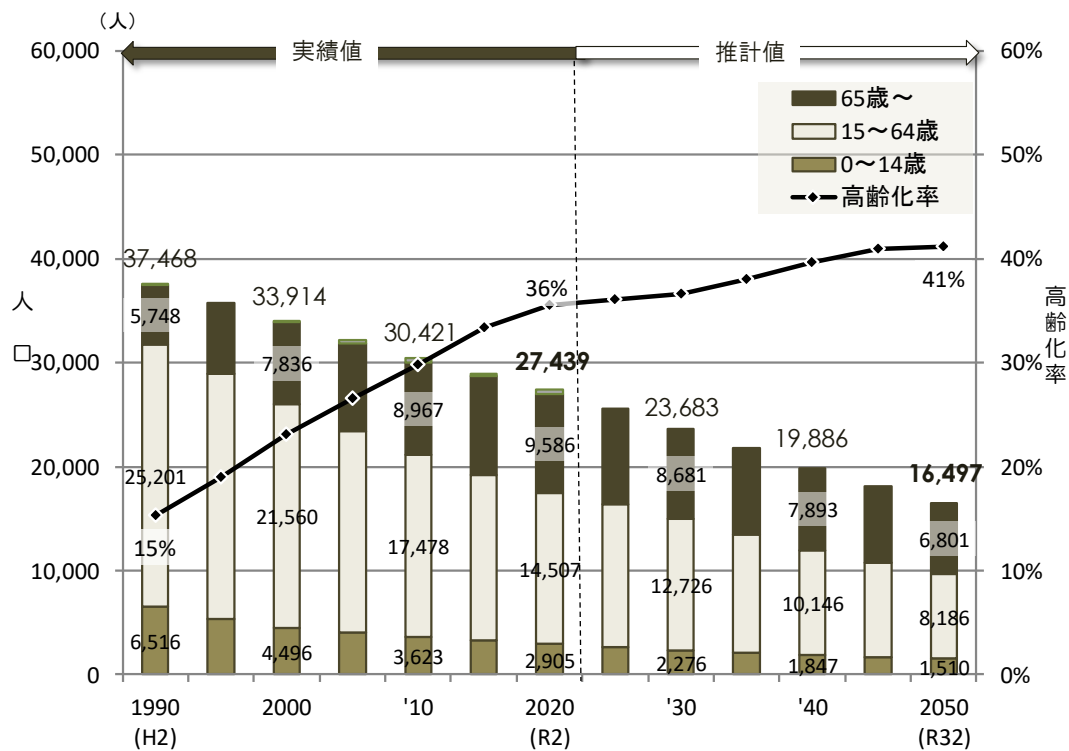
実際の地域自治区は行政区（町内会）単位で構成されているため、合併前上越市の一部の区では、実際の値と一部異なります。

#### 将来推計人口の考え方

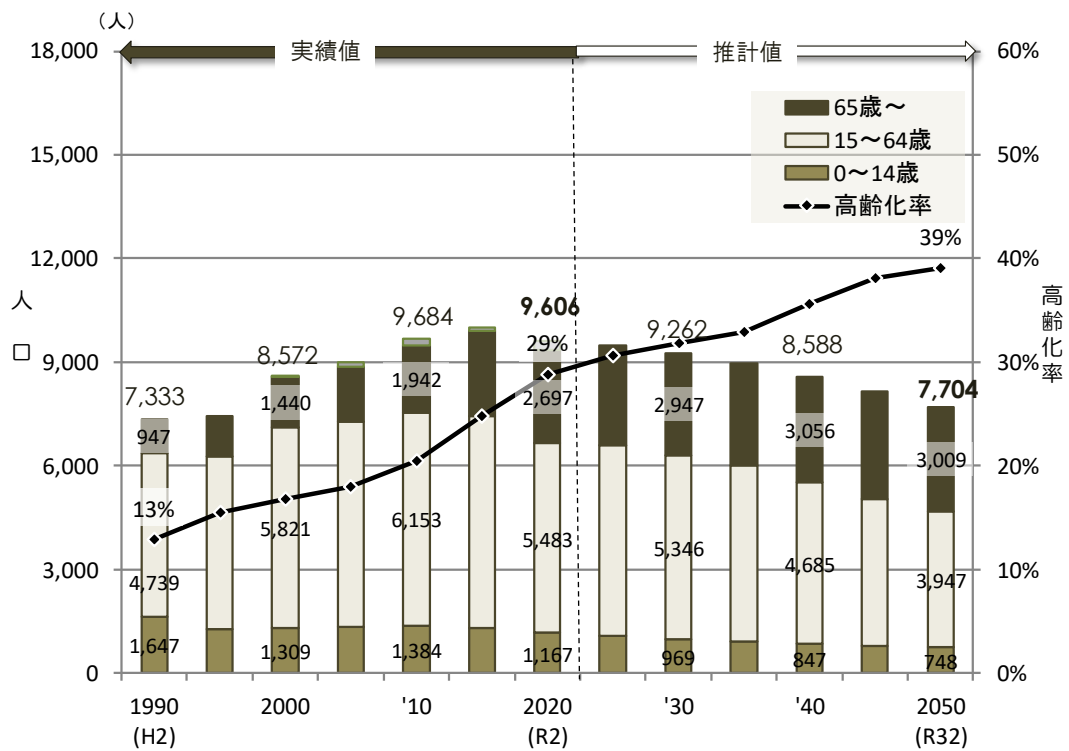
将来推計人口とは、「一定の条件のもとで人口が推移した場合の将来の人口」を示すものであり、仮定する条件が変われば結果も変わり得るものです。

このため、ここでお示した将来推計人口を前提とするのではなく、将来的に人口が安定するよう、移動傾向を改善させる取組を検討していくことが求められます。具体的な目標値の例は16ページに記載しています。

## 高田区

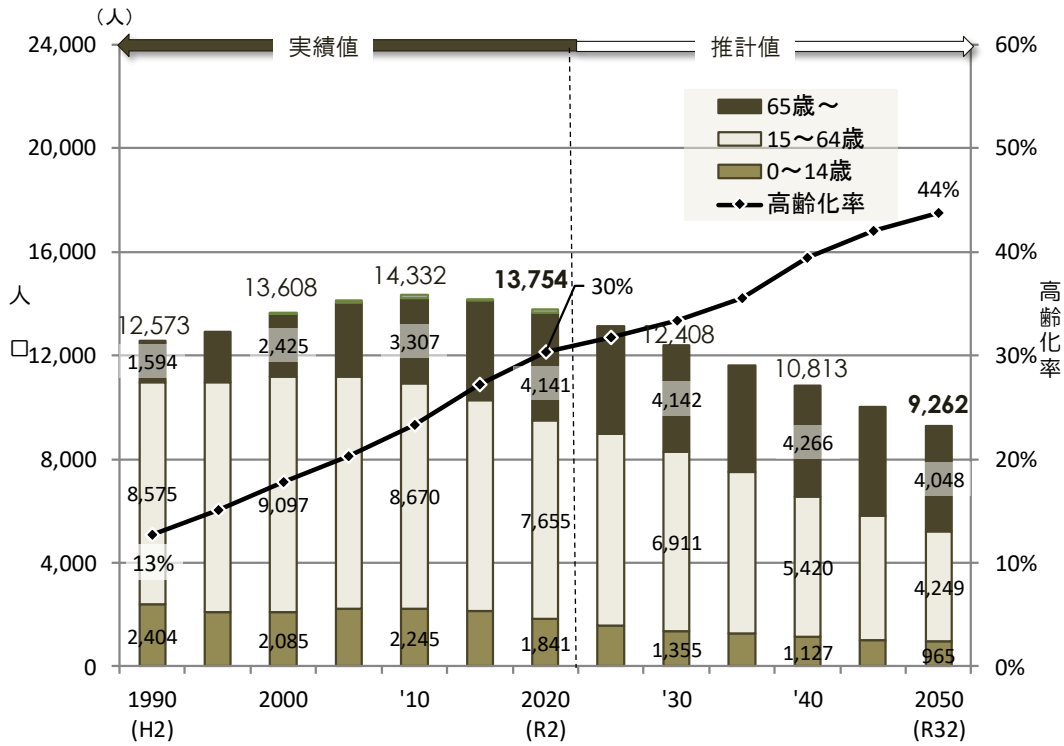


## 新道区

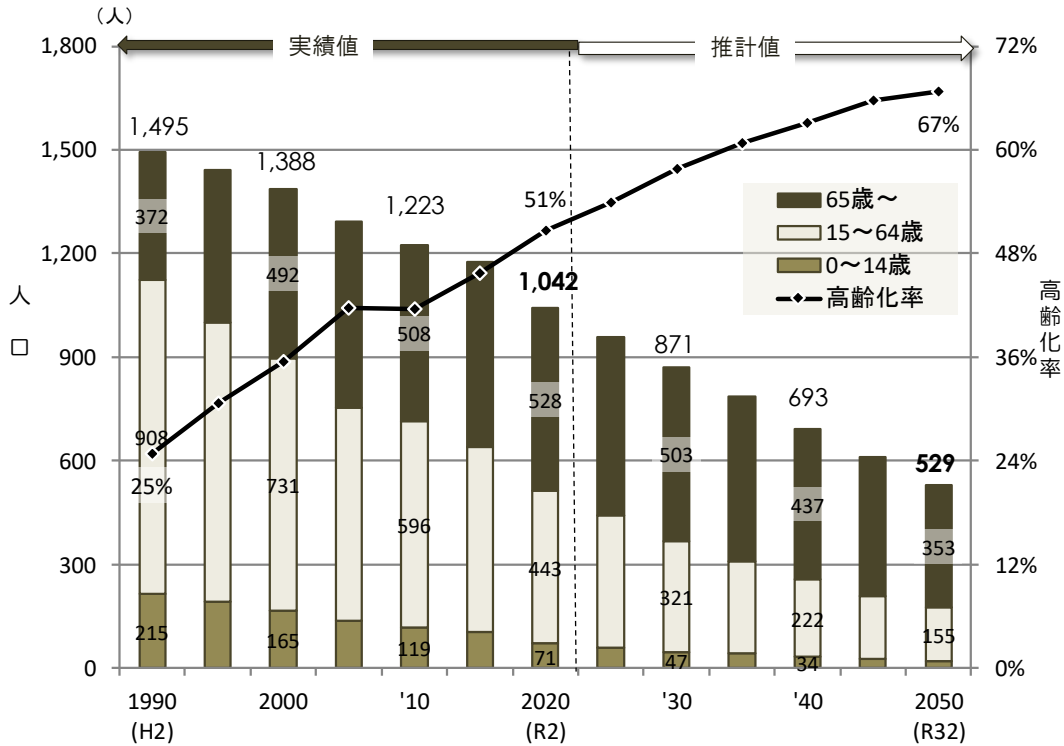




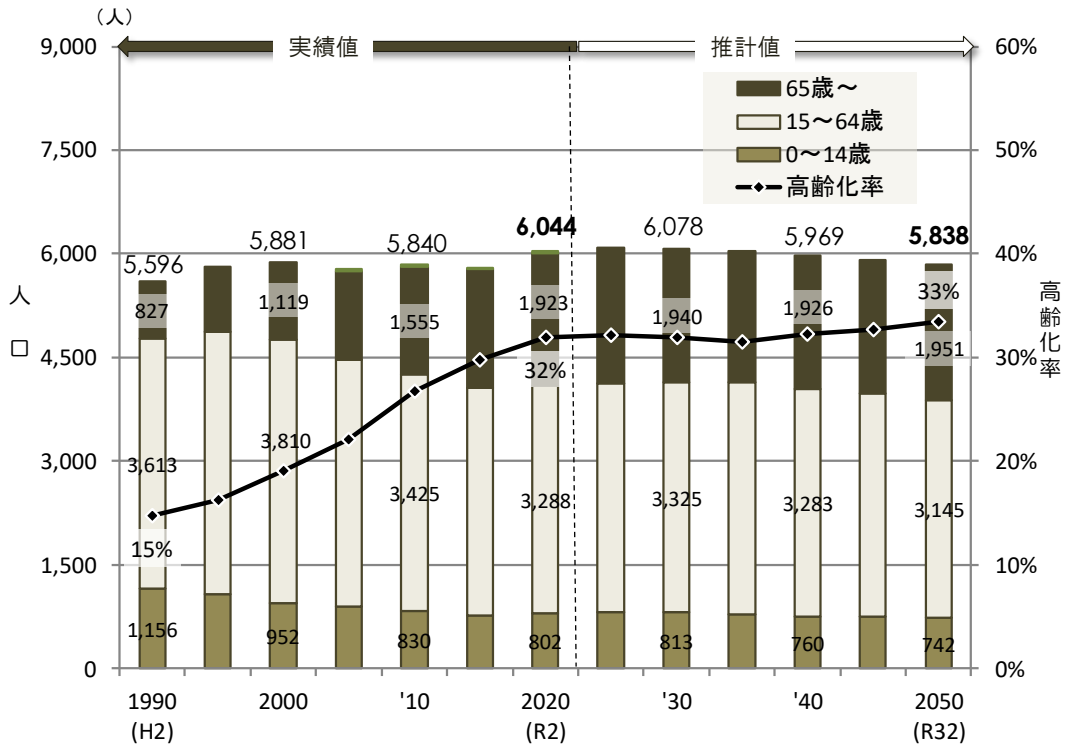
## 金谷区



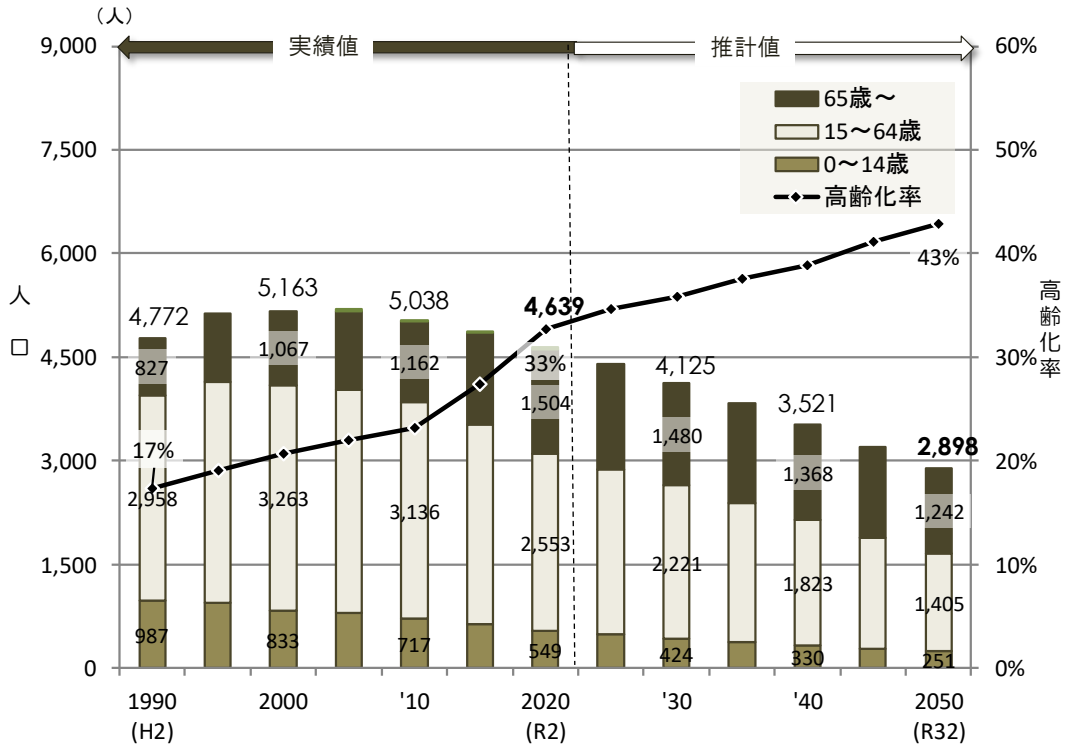
## 諏訪区



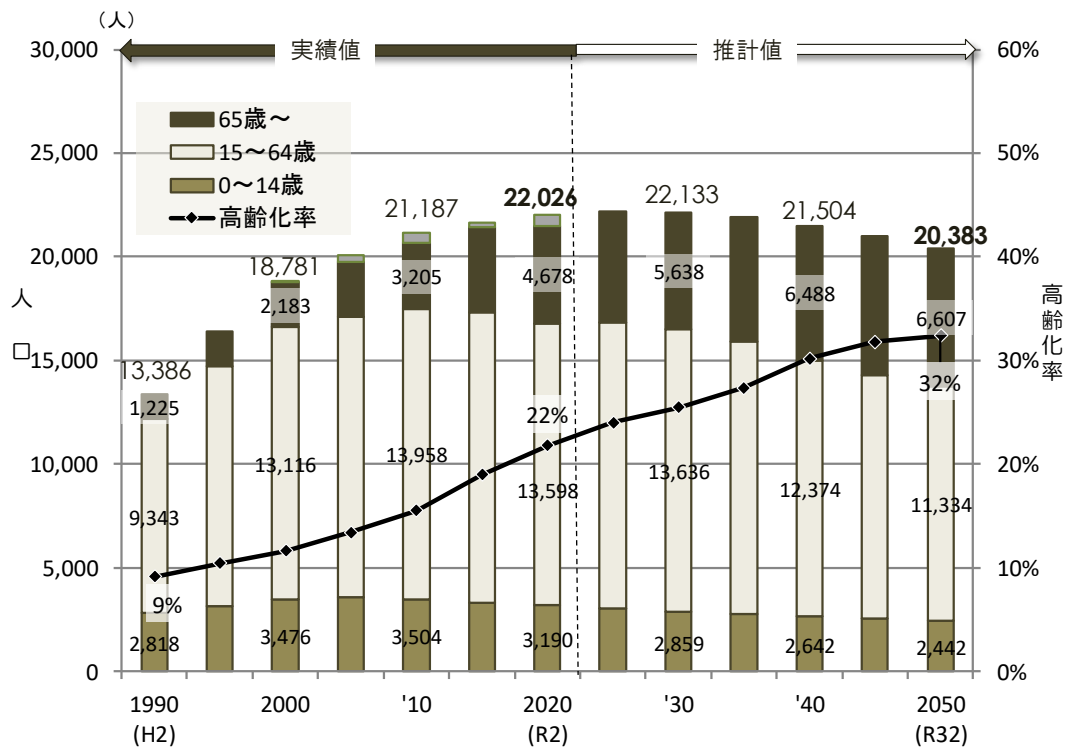
## 和田区



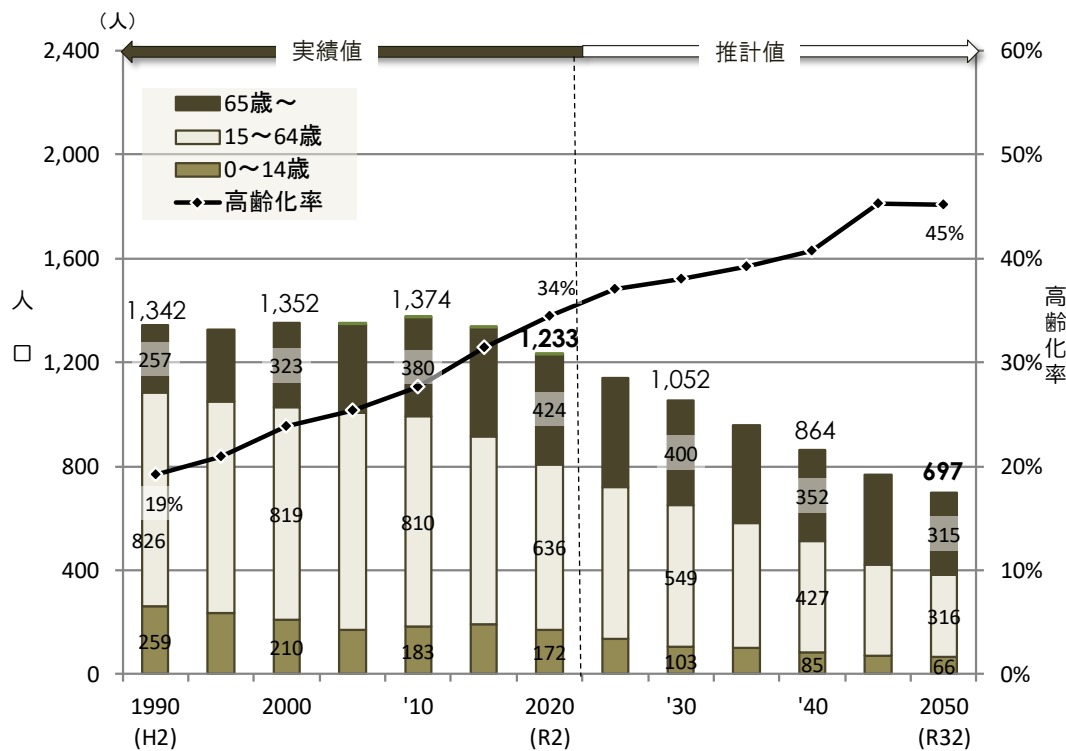
## 津有区



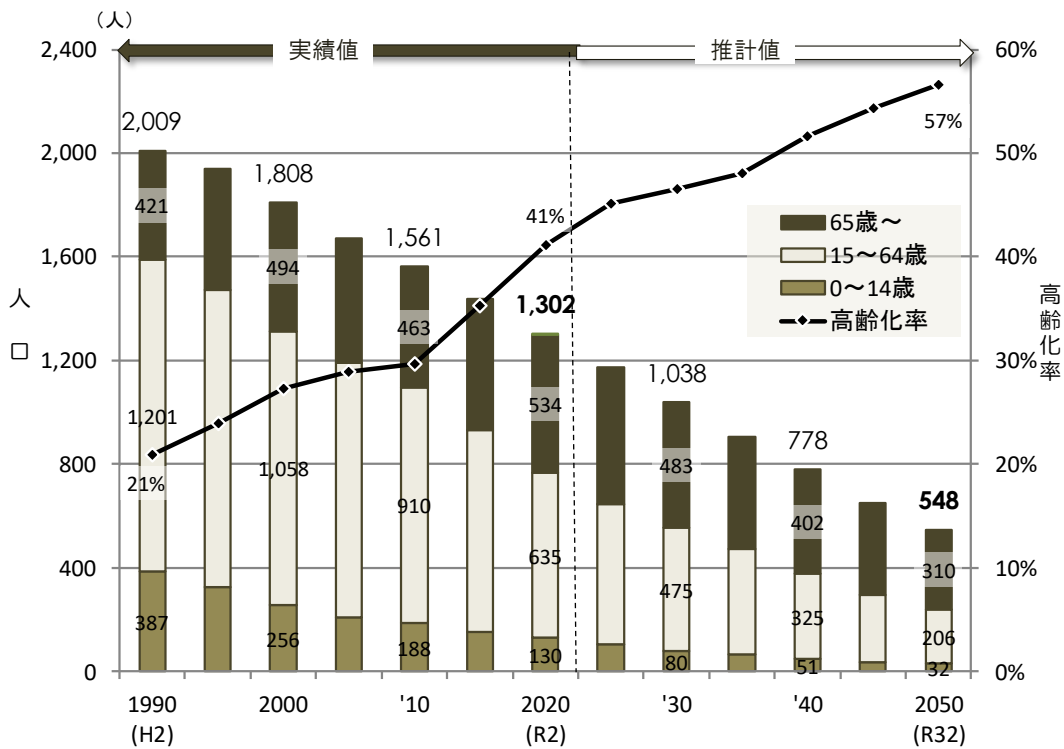
## 春日区



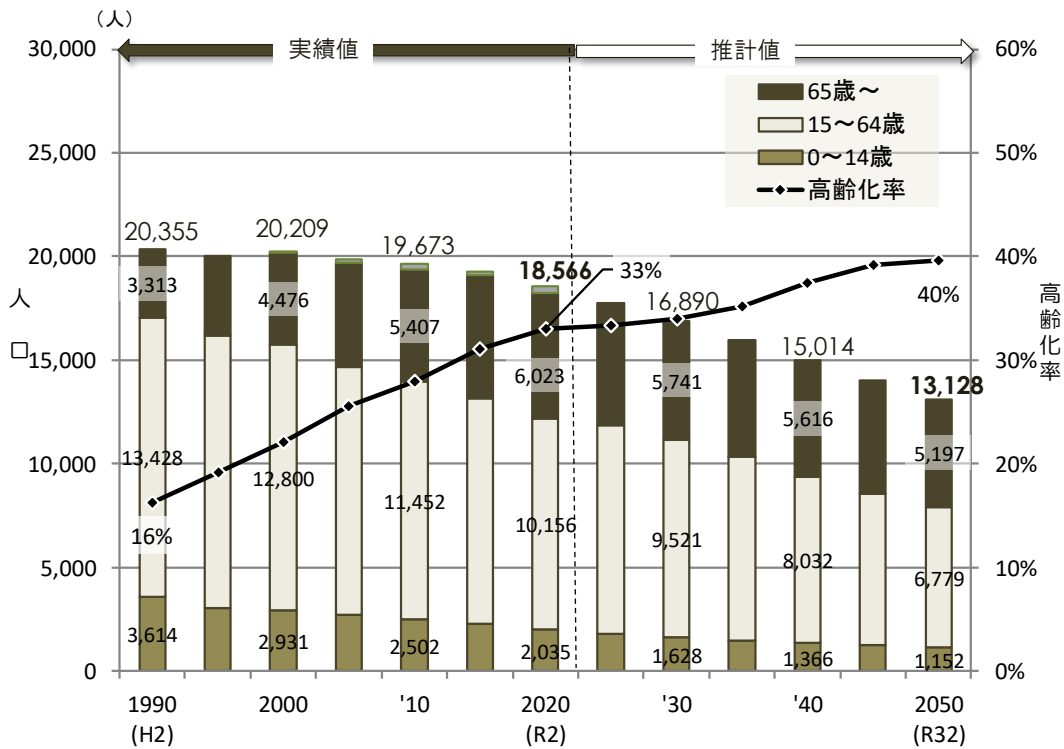
## 三郷区



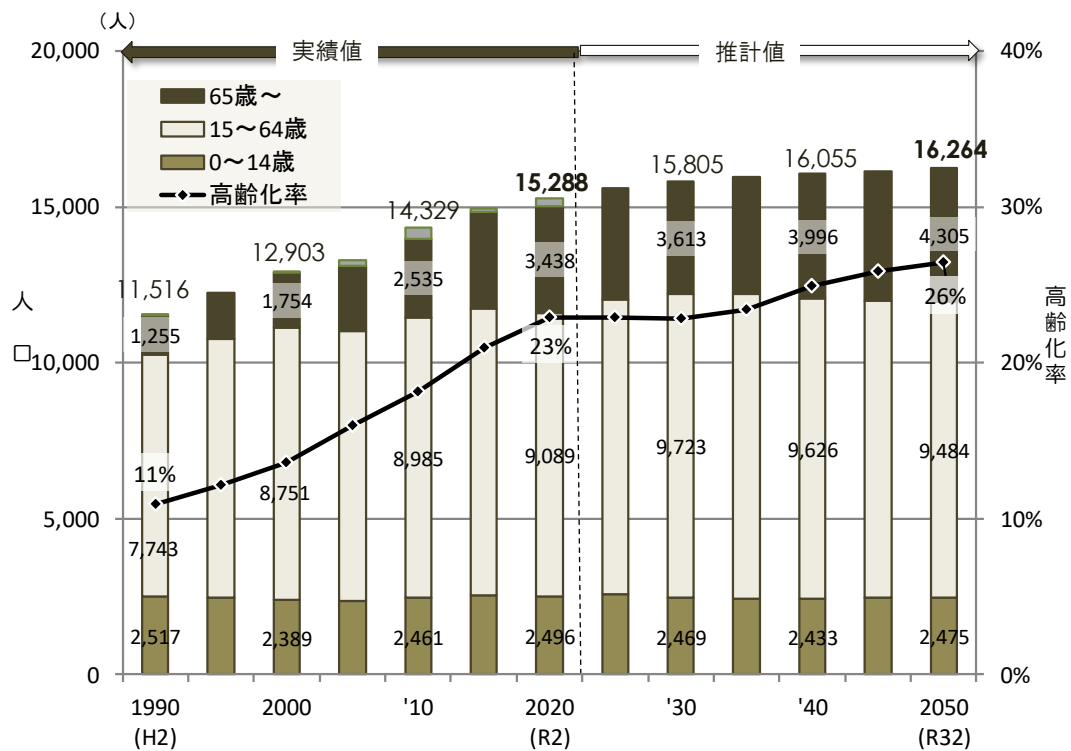
## 高士区



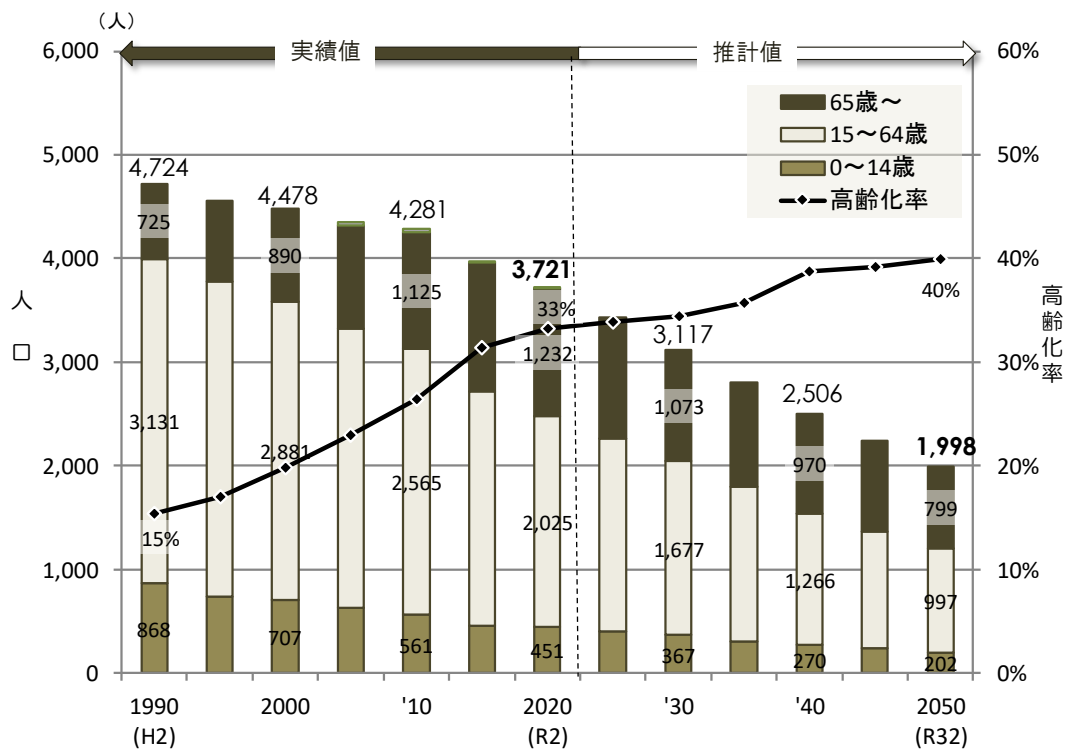
## 直江津区



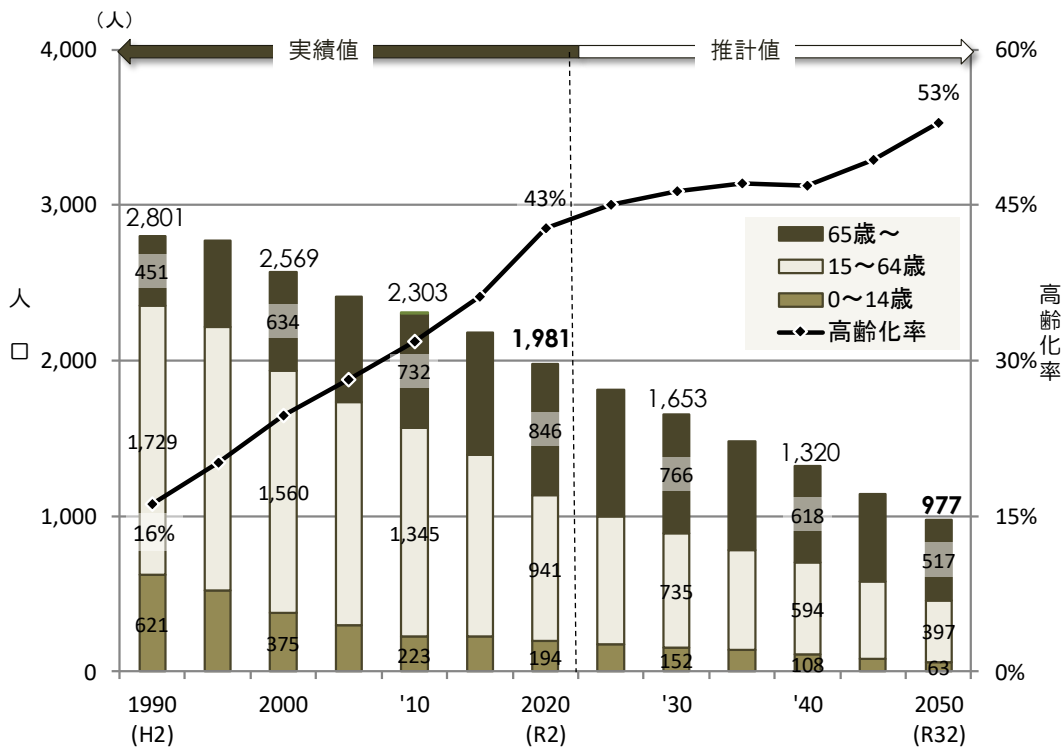
## 有田区



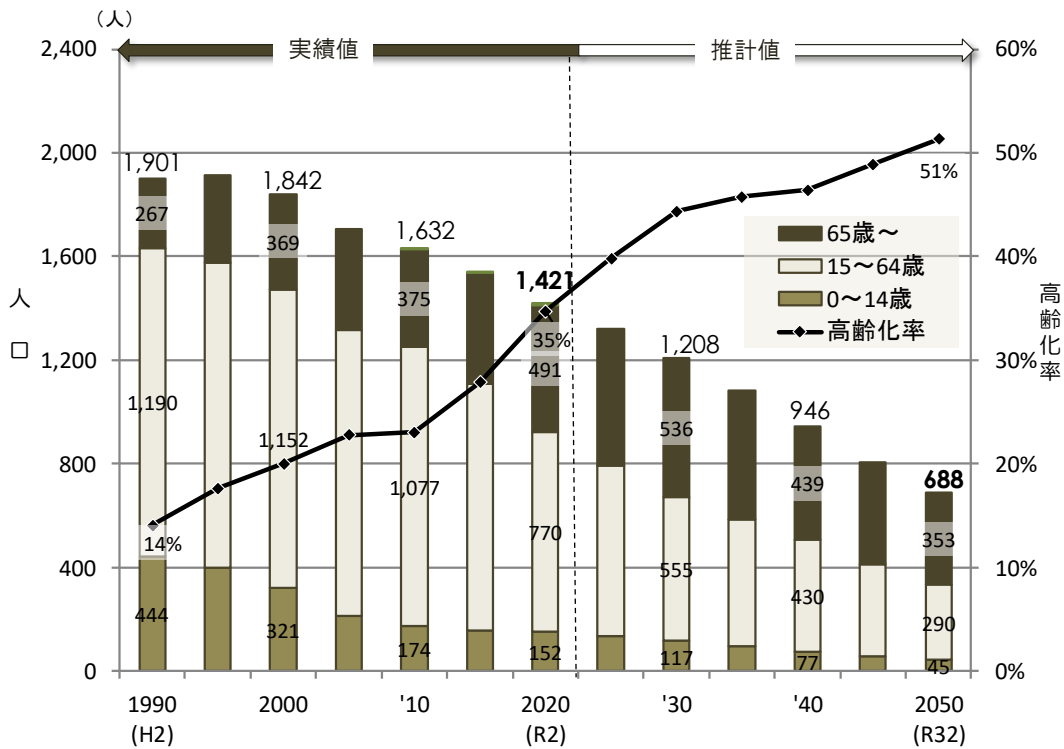
## 八千浦区



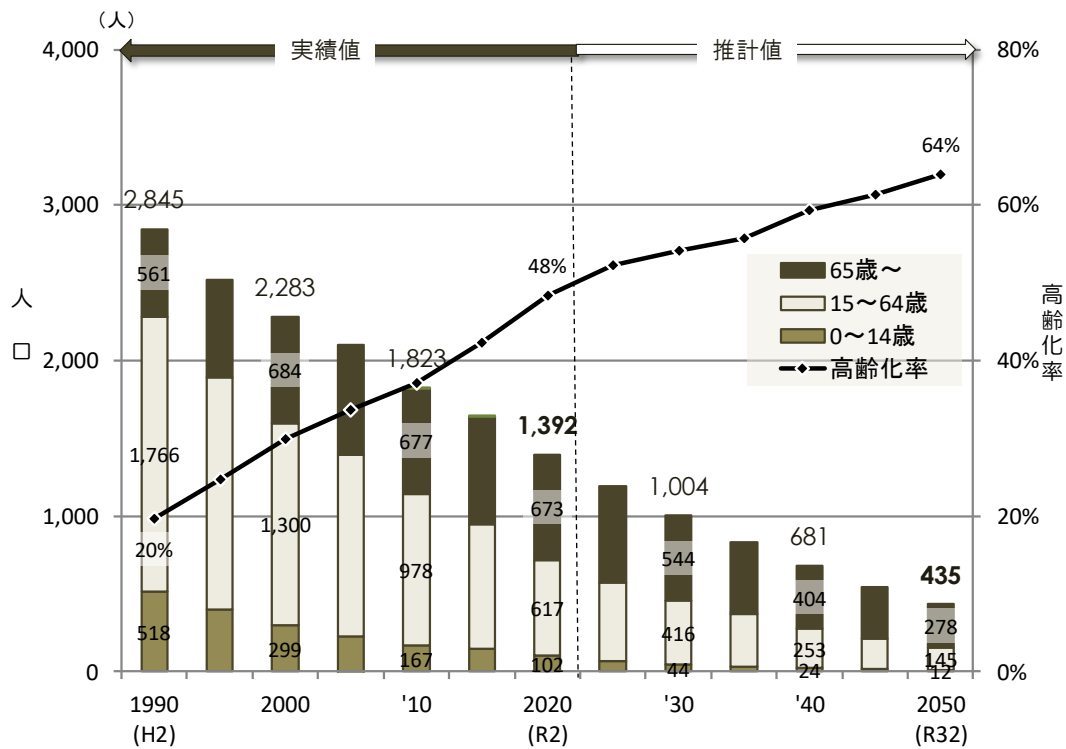
## 保倉区



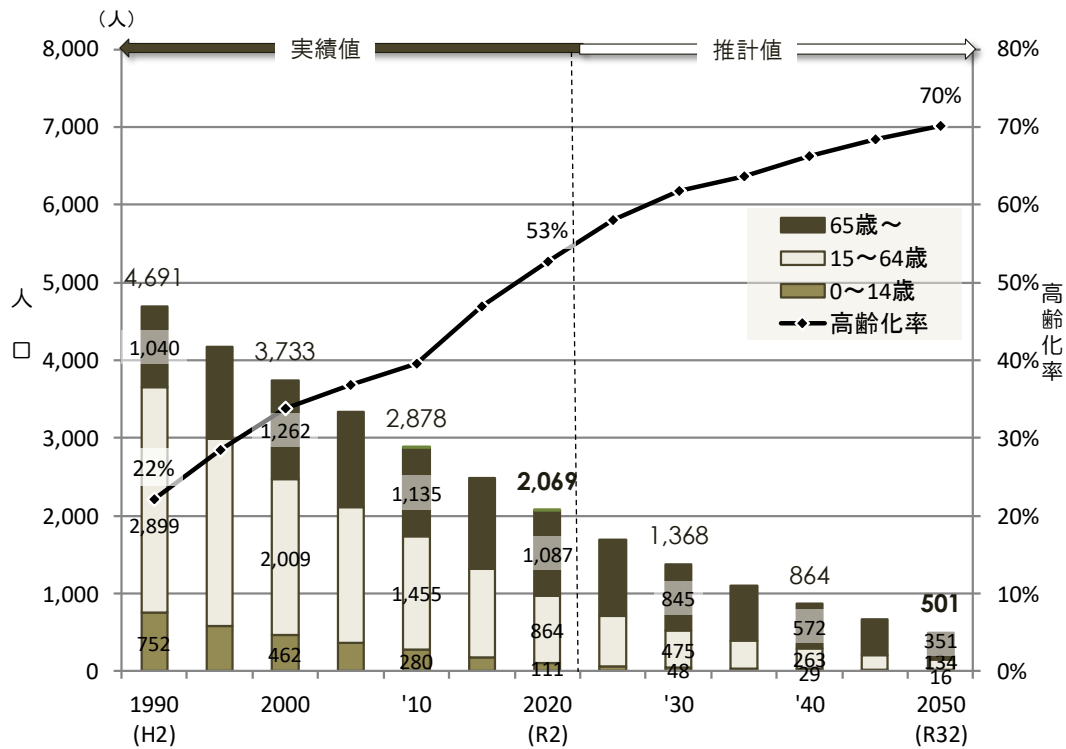
## 北諏訪区



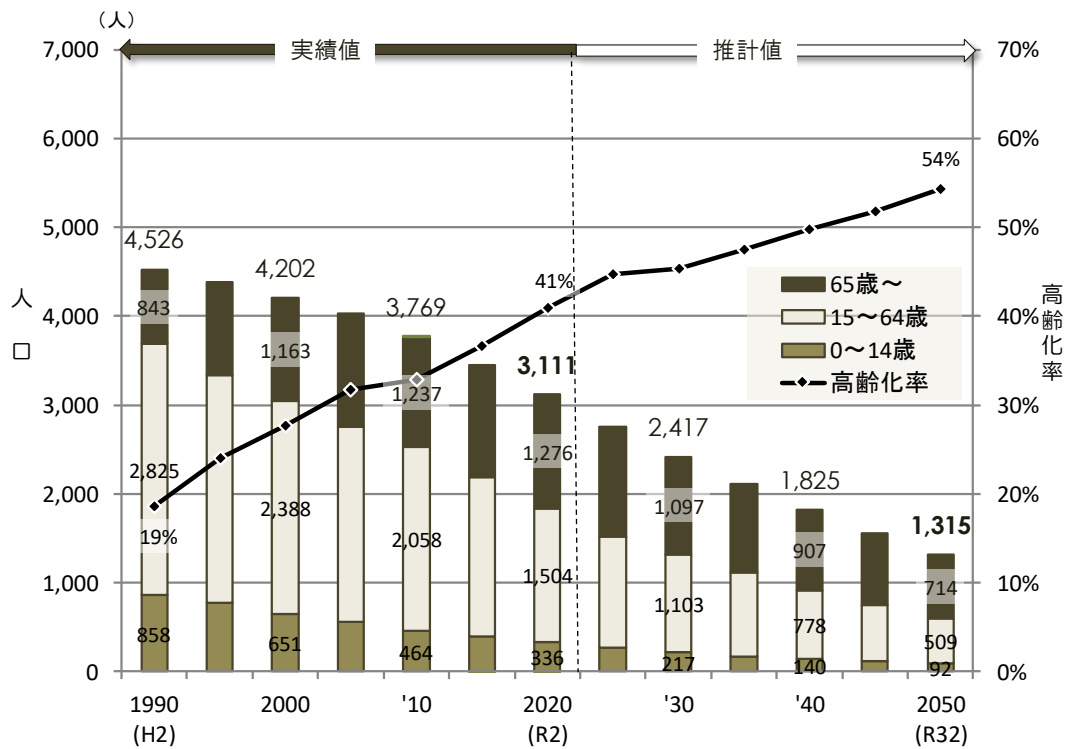
### 谷浜・桑取区



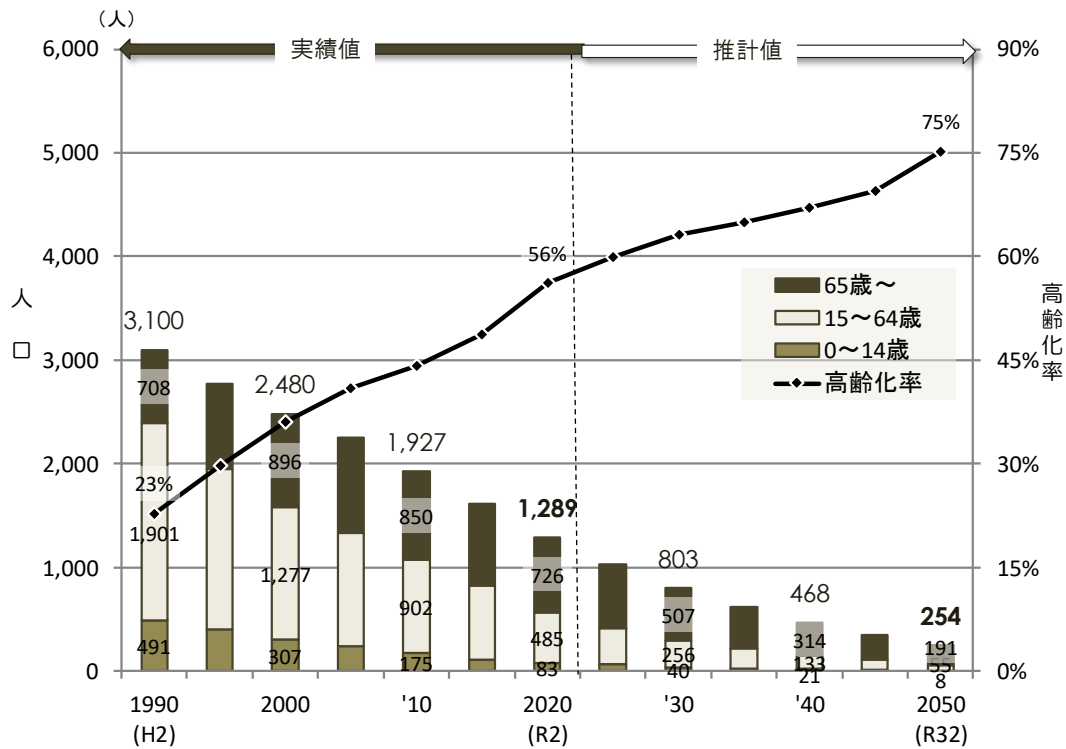
### 安塚区



### 浦川原区

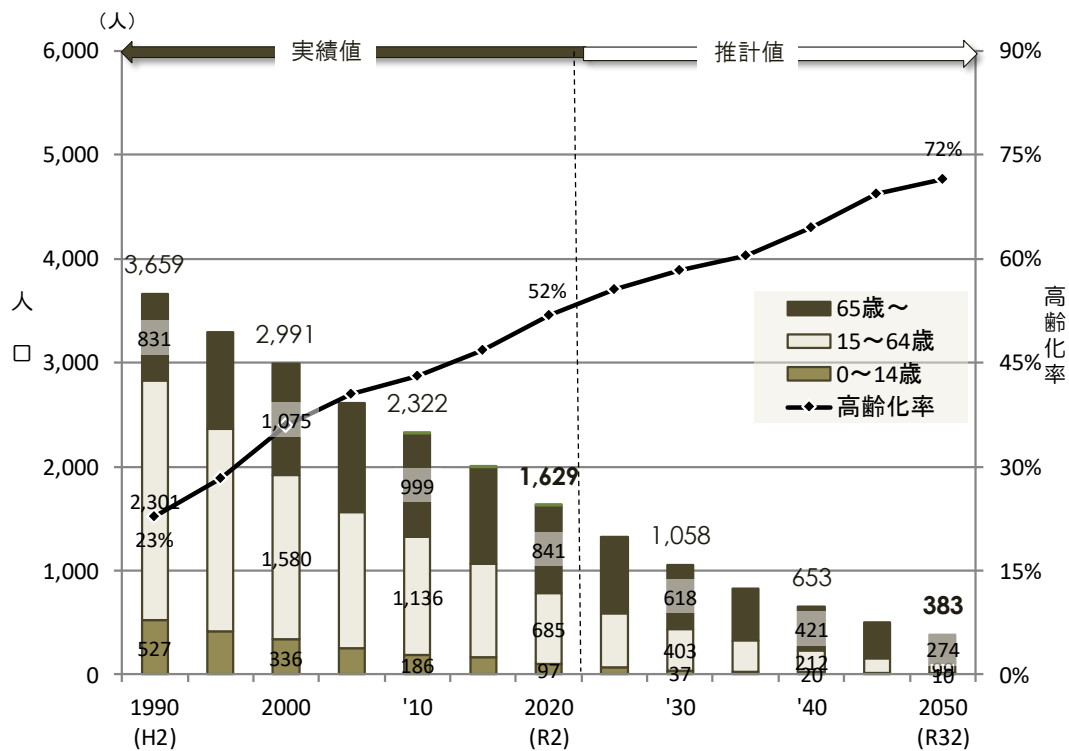


### 大島区

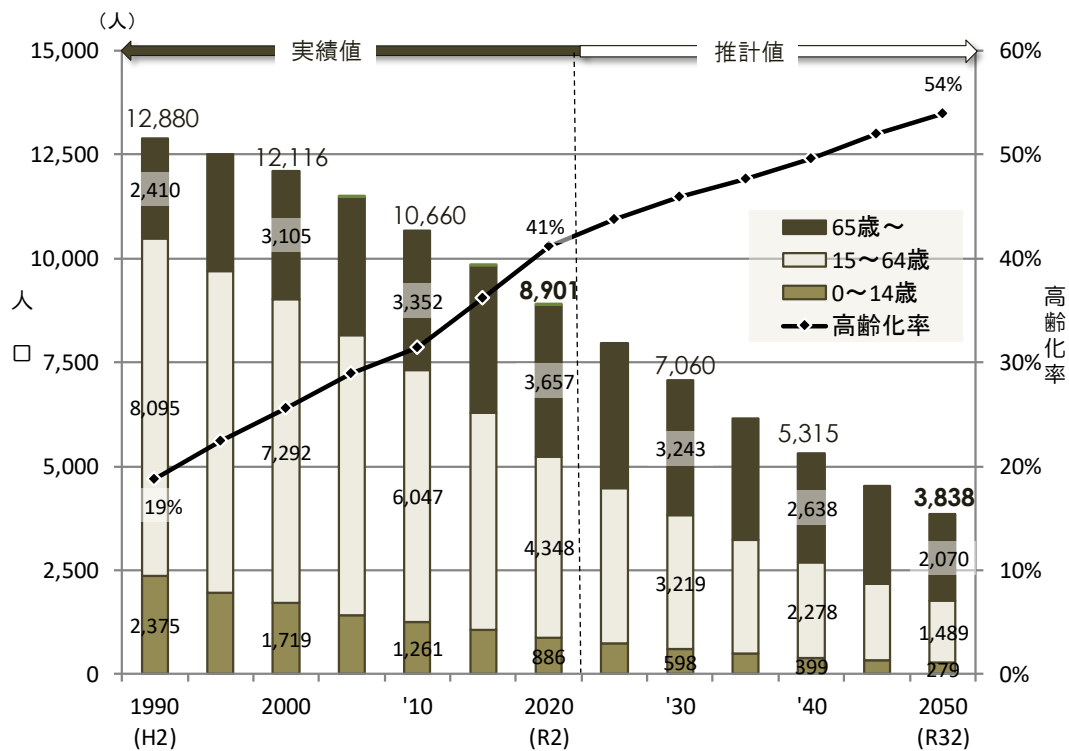




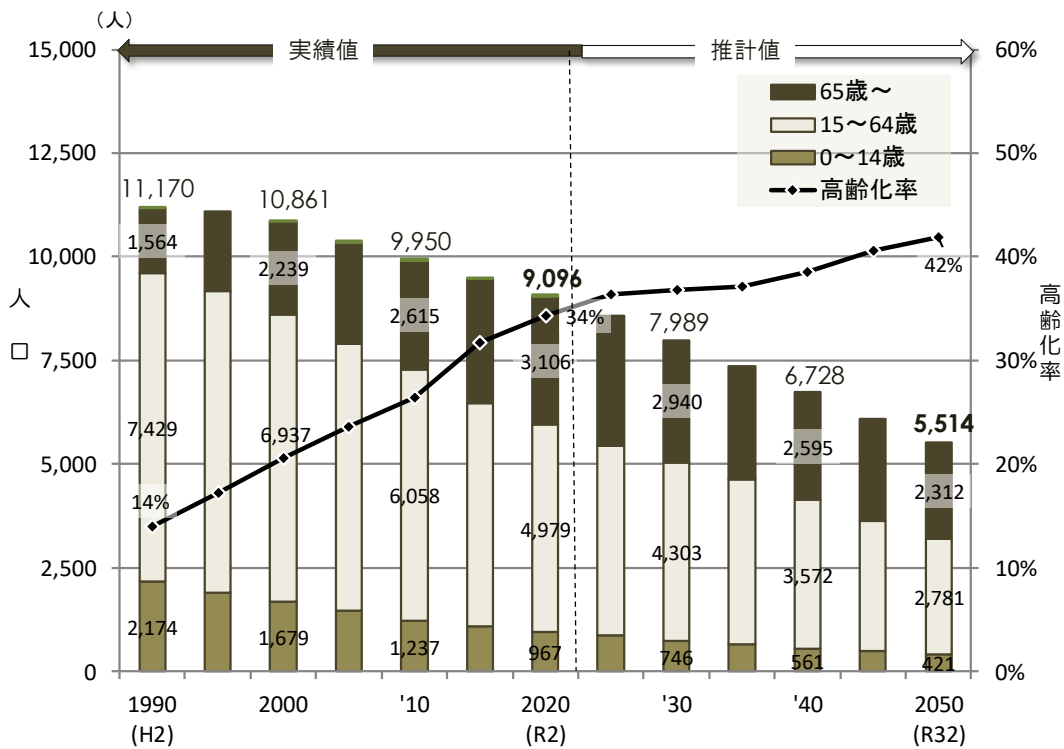
## 牧 区



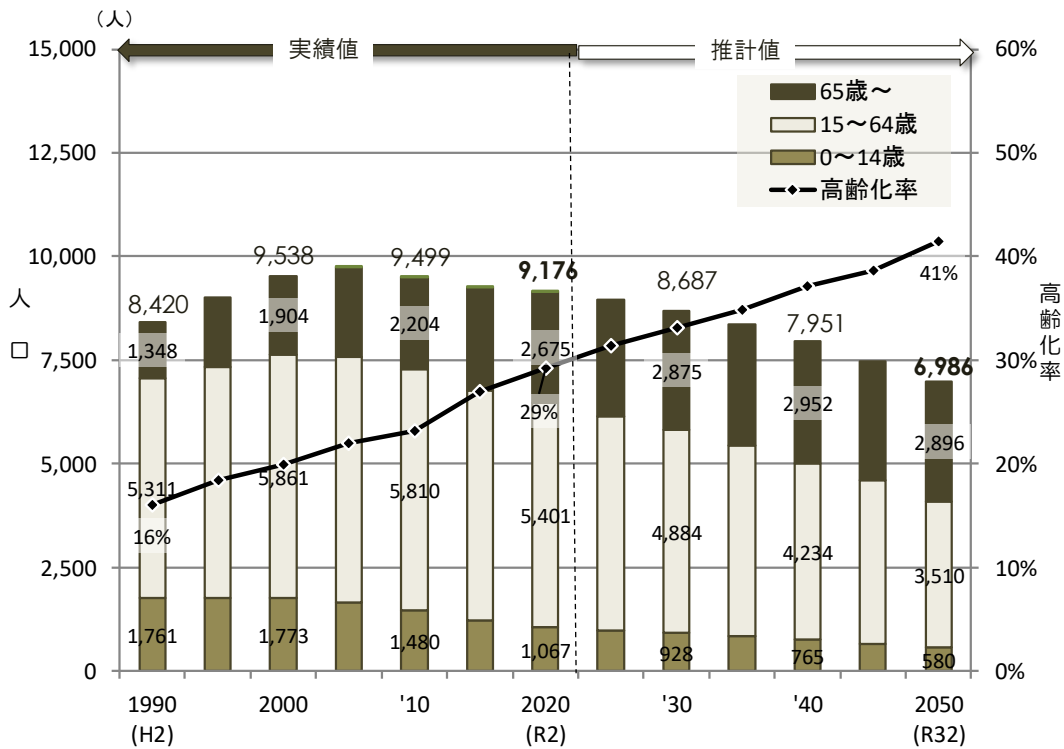
## 柿 崎 区



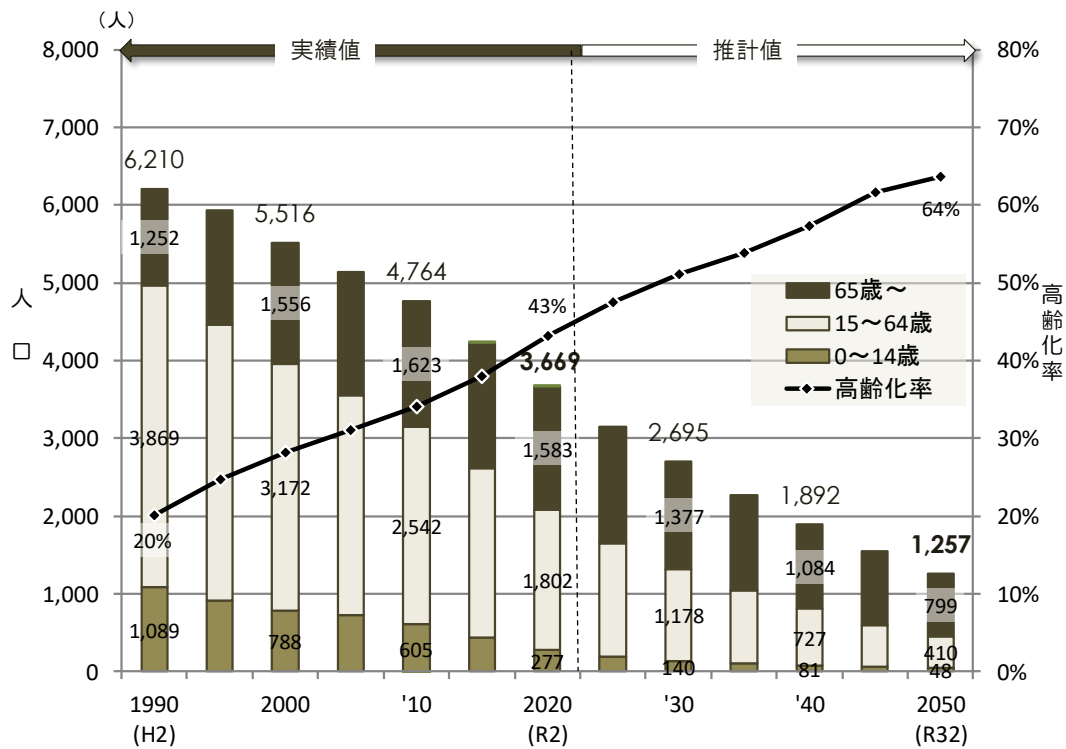
## 大 瀧 区



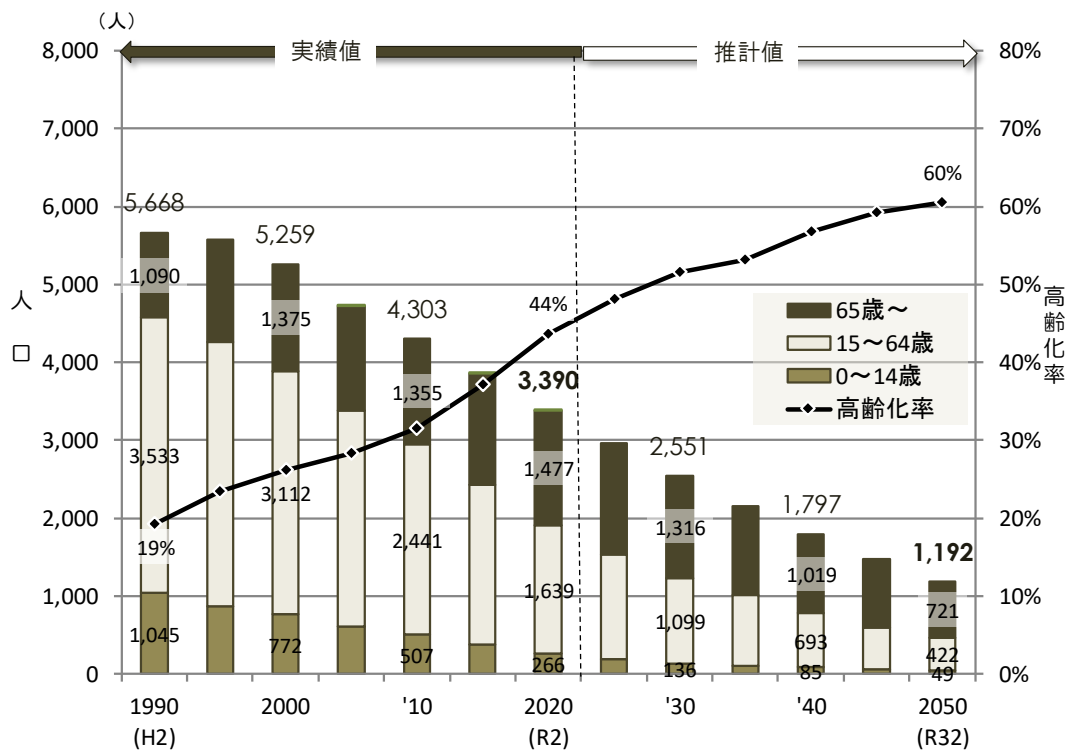
## 頸 城 区



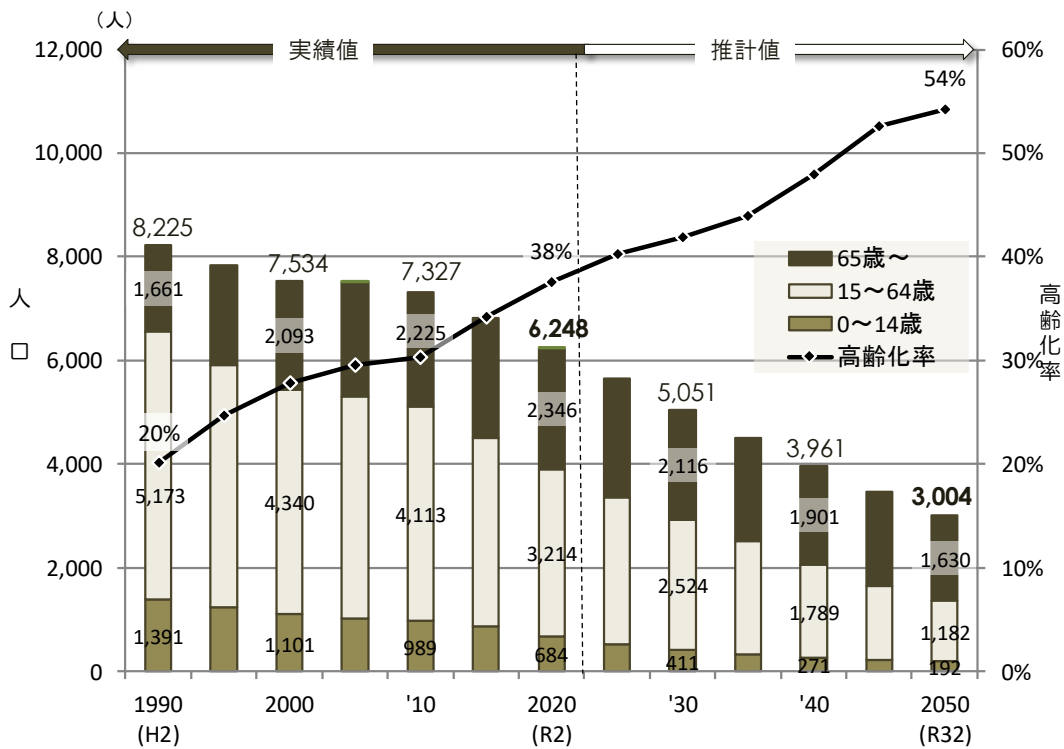
## 吉川区



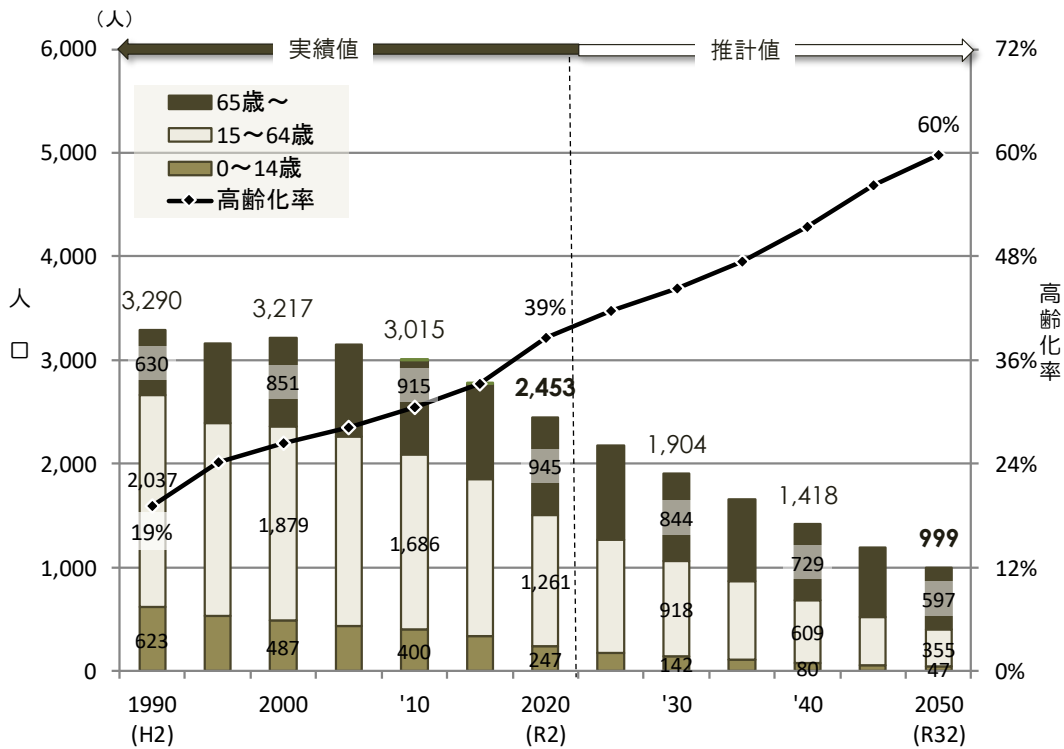
## 中郷区



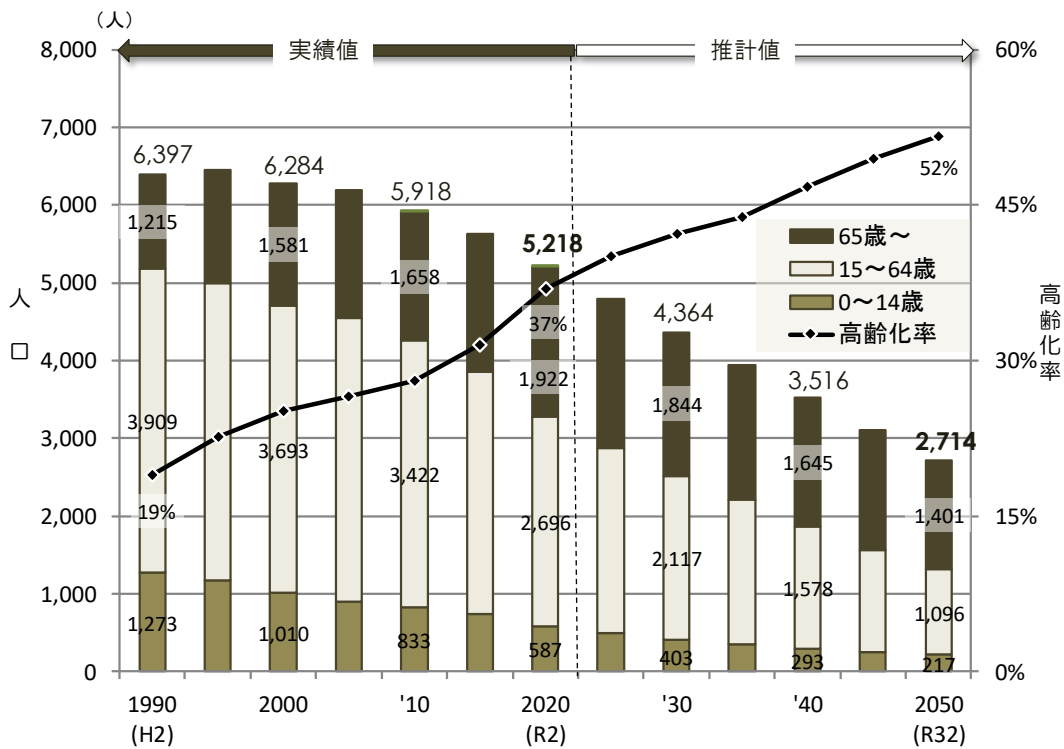
## 板倉区



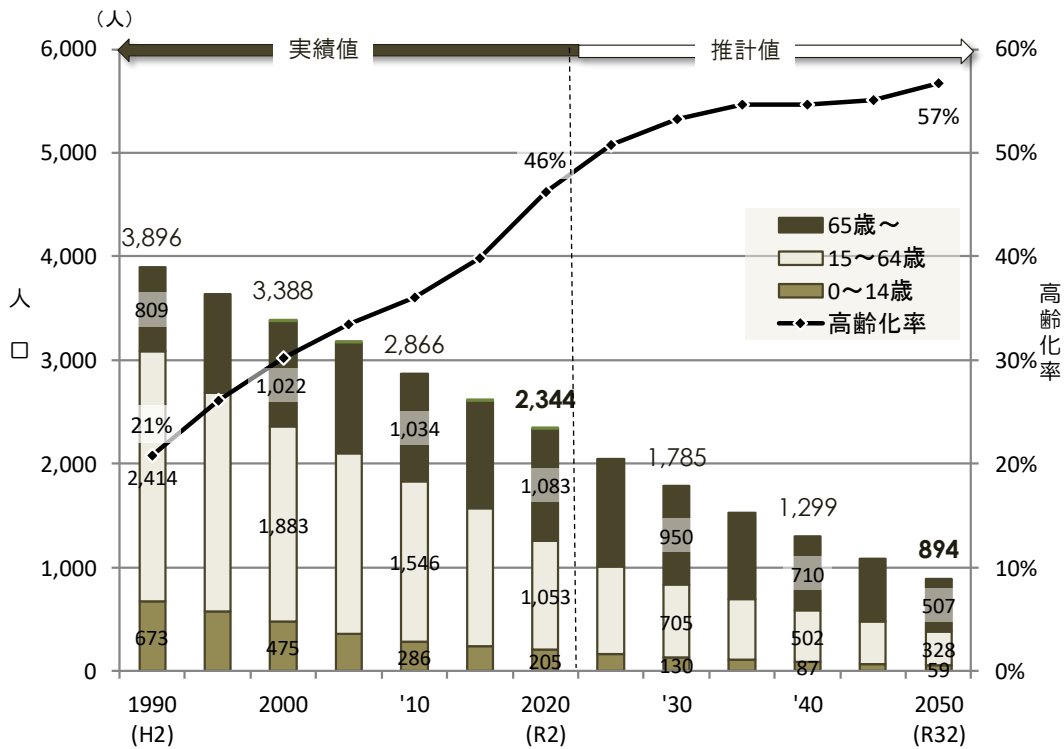
## 清里区



### 三和区



### 名立区



【参考】 転入者数が増加した場合の将来推計人口の変化の例（安塚区）

■ 現在の移動傾向に加えて、以下のような転入が毎年増加すると仮定

<仮定する条件>

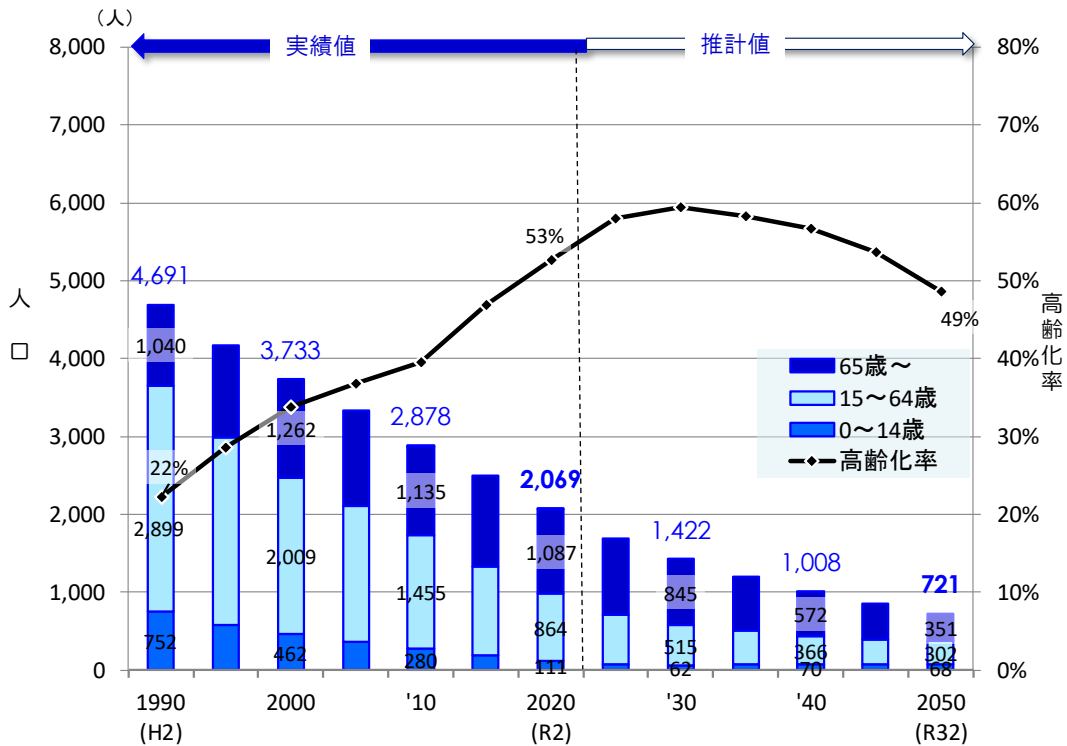
- 毎年さらに**2**組の〔30代前半夫婦と4歳以下の子ども〕が転入 = + **6**人
  - 毎年さらに**2**組の〔20代前半夫婦〕が転入 = + **4**人
- (+10人/年)

■ 上記を達成した場合、総人口は現在よりも減少するものの、2050年頃には子どもの数が安定化し、高齢化率も低下している見込み

■ 仮定した転入数は地区内の人口の0.5%（2020年比）

※ ここで示した将来推計は一例であり、実際の地域の目標として設定しているものではありません。

安塚区



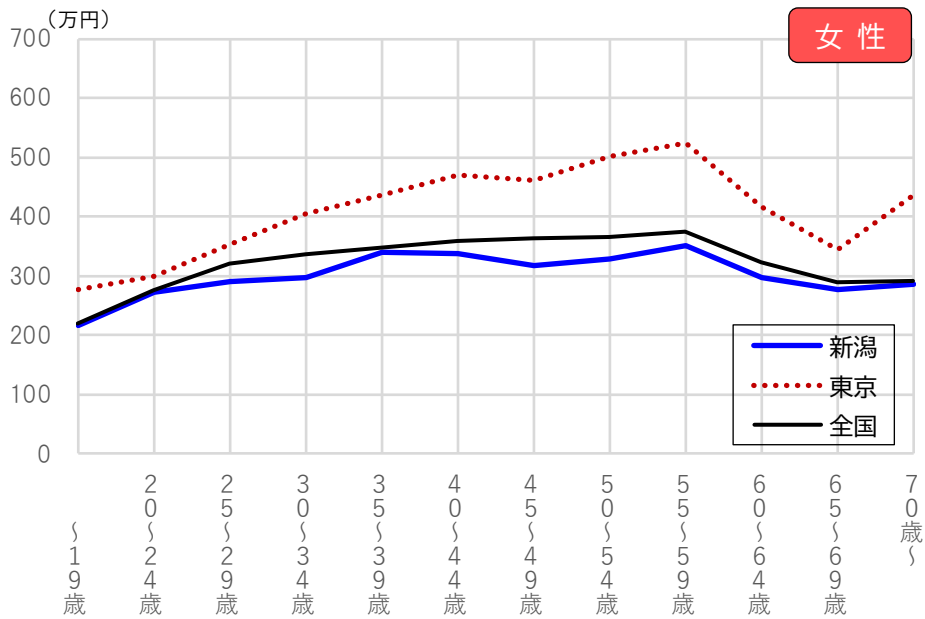
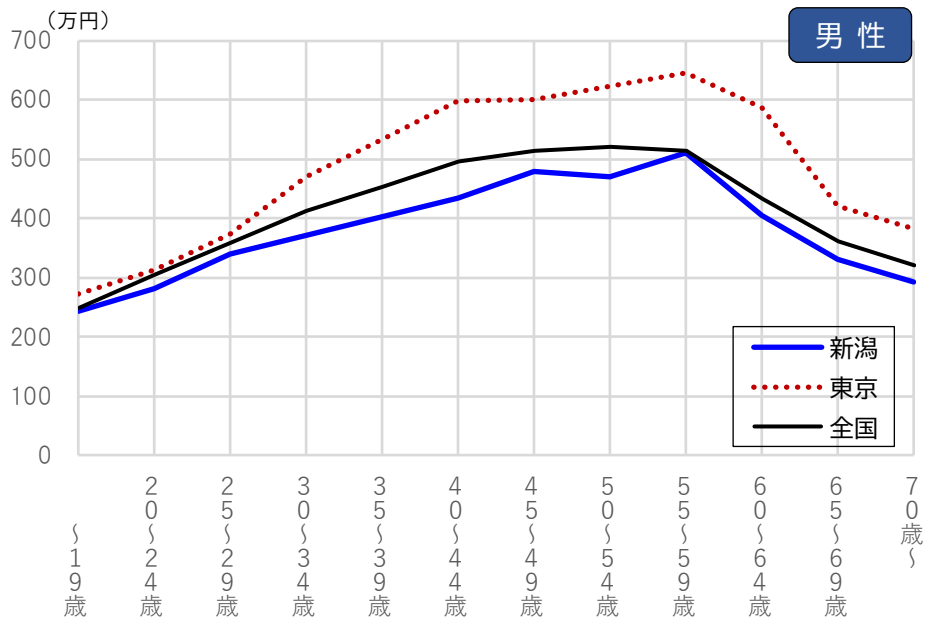


## 年齢別年収額

### ■ データの注意事項

- ・ データは全て新潟県、東京都および全国平均の年収額（物価差は考慮していない）
- ・ 市内には規模の大きい事業所（従業員100人以上）が少ないことから、①従業員10～99人の事業所、②従業員5～9人の事業所 のグラフを掲載

【①事業所規模10～99人・年齢別年収額（R3）】

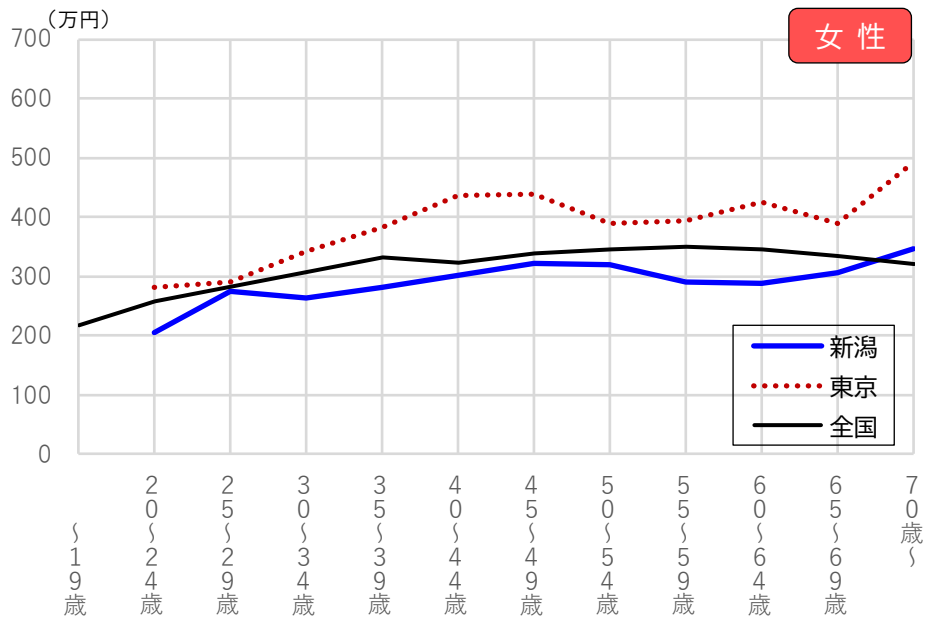
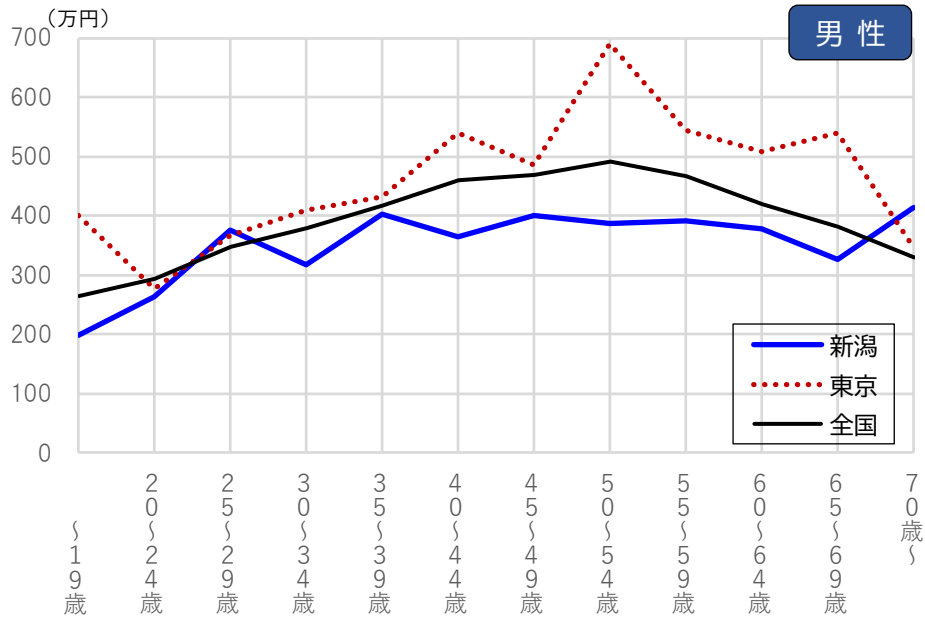


出所：厚生労働省「賃金構造基本統計」

備考：年収額は「きまって支給する給与額」×12+「年間賞与その他特別給与」で算出



【②事業所規模 5～9 人・年齢別年収額 (R3)】



出所：厚生労働省「賃金構造基本統計」

備考：年収額は「きまって支給する給与額」×12+「年間賞与その他特別給与」で算出

新潟県・東京都における19歳以下女性のデータなし